

2013年夏のアメリカ便り

2013年8月、日大国際関係学部教員短期海外研修の機会をいただき、実に5年ぶりにアメリカに戻ることになりました。ひさびさのアメリカは変わっているか、アメリカに対する感じ方は違っているか。1か月余りの駆け足滞在の記録です。メール形式で残した記録を基に文章をおこしたため、時刻付きです。友人関係などプライベートな記録は削除。あくまで徒然なるまま記した雑文ですが、確実に変わっていくアメリカを描写しました。

8月12日(月)
AA 5830便 [JAL 62便]
成田発 午後5:25: ロサンゼルス着 8月12日(月)午前11:35

AA (アメリカン航空) 2685便
ロサンゼルス発 午後4:00 サンノゼ着 午後5:05
Best Western Plus Mountain View Inn

8月17日(土)
Highway 1 (国道1号)を南下しモンタレーへ
Comfort Inn Monterey Peninsula Airport

8月19日(月)
AA 2678便
モンタレー空港発 朝6:05分 ロサンゼルス空港着 朝7:20分
AA 76便 (同上)
ロサンゼルス空港発 朝9:15分 ワシントン・ダレス空港 午後5:10分
Residence Inn by Marriott - Silver Sprint

9月14日(土)
AA 8407便 [JAL61便]
ロサンゼルス発 午後1:35
9月15日(日)
成田着 午後4:45 着

2013/8/13 Tue 16:00

今スタンフォード大学近くのホテルで、コンピューターつなげてメール。かれこれ5年ぶりのアメリカは、とても変な感覚。現在夜11時。気温は21度くらい。猛暑の日本から一転して高原に避暑に来たような感じ。それにしても、アメリカ、というか このシリコンバレー界隈、ずっと前からここに住んでいたようなデジャブ感半端ない。来たこともない街なのに。故郷のはずの場所に戻ってきて雰囲気が変わったことに戸惑う浦島太郎くらいの気分。アメリカから日本に戻って7年間。日本に馴染んだはずの感覚が一瞬にして消えてしまい、やっぱり自分はこっちに住んでたんだ、と実感しつつ、え、そんなにすんなりと「戻った」と感じてしまっていて良いのだろうかという戸惑いと。

2013/8/15 Thu 18:26

夕方（6時間前）スタンフォード大学から、グタグタになって帰ってきて、激マズ中華のテイクアウトを食べて寝てしまい。レンタカーを借りて、さっそくスタンフォード大学へ行ったはいいけれど、思ったほどに、威厳とか、建物の荘厳さとか、規模とか、いかにも金持ちそうとか、歴史が感じられる、などの理由で圧倒されるようなキャンパスではないなあ、と驚いている。東アジア図書館には マンガコーナーがあって、『海月姫』の最新刊も、『エロイカより愛をこめて』もあった。図書館のキュレーターにおそらく日本人がいて、その人の趣味だろう。結構マンガを知ってるな、というようなセレクション。貸し出し状況をチェックしたら、結構頻繁に貸し出しされている。先月『聖お兄さん』を借り出したのはおそらく日本人留学生だろう。アメリカの大学で普通に日本語を勉強している程度ではとてもこんなマンガは読みきれないだろうから。若い世代だと読むかもしれないけれど。日本語のマンガまでチェックしながら日本研究やっているようなのは稀有だろうな。まして普通の日本人が見るテレビ番組だの音楽だの、そういった「あたりまえ」までを知ることもなく「日本の本質」とやらを研究している、というのは無理があるだろう。



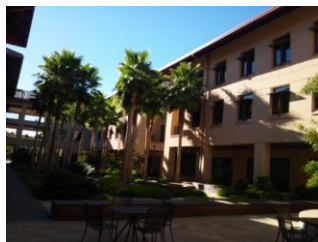
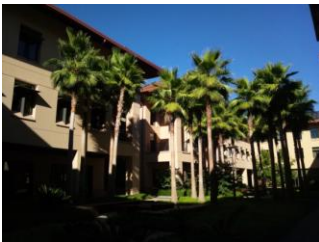
図書館に入館手続きするとき「大学院生？教員？」と聞かれて喜んだ。だけど良く考えてみると、今では日本の大学でも、70歳、80歳の聴講生やら大学院生やらは普通なのだから、「大学院生？」と聞かれるのは、とっても若く見えるという意味ではなかった。

それにしても、戦後日米関係というのは、闇に包まれていて、どっちにも不都合なことが山のようにあるんだろうな。そうそう資料など、そうそう簡単に山積みになっているはずはなかろうに、とあらためて実感。スタンフォード大学のフーバー研究所文書館は、今やデジカメ、スマホ持ち込みOKで、特に中国から来ている大学院生や研究者が、米中関係に関する資料をカメラで撮りまくってる。だけど、こんなところに、誰が見ても構いません、さあどうぞ、とばかり堂々と置いてある資料など、たいした価値あるものか、と冷めた目でみている。



今日からレンタカーをかりて車の運転を始めたけれど、日本に戻ってずっと右ハンドルで走っていることは全く問題なし。5年ぶりに左ハンドルの運転に戻るのだけど、形状記憶金属みたいに昔の感覚がよみがえってきて、そうなる左ハンドルのほうが日本より全然運転しやすいのは確か。ハンドルを握ると何をどうすれば良いのか、考えなくても記憶が戻ってくる。

スタンフォード大学の教員オフィス棟。思わず忍び込んでしまった。いや、警備員に呼び止められたら、知っている先生の名前を挙げて「オフィスにいるかと思って～」と言えばよい、と。しかし考えた。こんなドバイのような環境のオフィスにいて、窓の外をみればこんな風な青い空。ちょっと車を走らせればサンフランシスコのナイトライフが待っている。果たして本を読んで論文を書く気になるだろうか、と。論文などは、牢獄のようなところで半ば缶詰状態になってこそ書けるのだろう。そしてその牢獄の外にはこれといって何もないところなら、なお良し。キャンパスのすぐ外に素晴らしい景色が広がっていたら、誰がオフィスにこもってPCの前で時間を費やしたいものだろう……。スタンフォードの先生は、実はあまり **Productive** ではないのではないかと勝手に考えた。（実際中西部で教えていた頃、サバティカルをもらってマンハッタンに逃げ出すたびに、仕事がおろそかになっていたのは事実。）



2013/8/16 Fri

価格破壊が進む日本からアメリカに戻ってくると、物価が高いのでびっくり。大学のカフェテリアだって、サンドイッチが8ドル、コーヒーが2ドル、昼食だけで10ドルが飛ぶ。テイクアウトの夕飯となれば、毎回15ドル以上は当たり前。まあここはシリコン・バレーに近いので、若くても羽振りのいい、食道楽のIT関係者が多い。

時差ボケのせいか、夜10時ごろ、テイクアウトでご飯食べるとそのまま日焼け止めも何も落とさず爆睡し、朝方4-5時ごろ目をさまし、1時間くらいそのまま起きて、6-7時ごろまた寝て、9時ごろ起きる、というパターン。ホテルからスタンフォード大学までは車で行くけれど、キャンパスは広いので、駐車場から図書館、カフェテリアと毎日歩くと結構な距離。なかなか健康な生活。

2013/8/16 Fri 21:19

今日も中華のテイクアウト。アメリカで全国展開している有名なチェーン店、パンダ・エクスプレスへ。最初の頃（1990年代？）は、あちこちの空港のフードコートに出店していただけたような気がするけれど、はっと気がつくと全米各地でアメリカ人のハートをわしづかみにしていた。マクドナルドなどのチェーンと同じくらいの影響力と売り上げ高と店舗数があるような気がする。仕事を終えていったんホテルに戻ってきてから、わざわざスタンフォードの学生街まで戻ってパンダ・エクスプレスへ。日中関係のいざごは置いて、海外に出たら頼りになるのはやはり中華。始めてイタリアに行ったとき、ローマで食べた中華は、確か小さい頃に食べたちょっと甘い中華の味。海外の寿司など高いばかりで、そのうえまずい（というか、少なくとも10年前くらいまではまずかった）。ドイツでも中華にお世話になった。当たり前だが、イタリアの中華料理屋で働く中国人はイタリア語を話し、ドイツではドイツ語を話していることにも感動したなあ。



Chicago O'Hare Airport のが懐かしい

ちなみに。先学期教えていたアメリカ人学生に、アメリカに戻ったら何を食べたいか、と聞いたら、メキシカン、ギリシャ、など エスニック料理ばかりをあげていた。一人の男子学生が「オレ、アメリカの中華を食べたい！」と言って他の学生の支持を受けていた。まあアメリカの中華は、Panda Express も含めて、「バーミヤン」とか「王将」とかとは、やっぱり違う。何というか甘みと辛味のメリハリがある、といえは聞こえは良いが、どこで食べても予想通りの同じ味、という安心感。全米中華料理店連合のような結社のようなものがあって、加盟しなければ営業できず、加盟したら絶対に統一レシピを守らねばならない、といった取り決めでもあるのだろうか、とか。

アメリカに戻ってきたらやはりサラダ。毎日もりもり食べている。日本で売っている生野菜と、アメリカの生野菜は、味覚や歯ごたえが異なる。日本のはやさしい味、あくまでも添え物、メイン・ディッシュの味を損ねない程度の存在感。アメリカのは、えぐみもあるし、存在感十分。ベビー・キャロットなど、ステーキにも負けないカッキーという噛み応え。Whole foods という、バージニアに住んでいたとき良く使ってた、やや高級志向のスーパーで、有機野菜のサラダを毎日買って食べているけれど、本当に美味しい。

オーガニック食品が売り物のスーパーは、ここ10年くらいどっと増えてきたけれど、もちろん昔からある庶民的なスーパーも並存。先日そちらにも行ってみたら、安かろう、悪かろう、みたいな、それこそどこぞの危険な国からの輸入品のような冷凍食品とか、毒々しい色をついたお菓子とか、賞味期限がないようなパンやケーキなどなどばかりで。ああ、なるほど、お金があつて健康志向の人は高級志向のスーパーへ、節約を目的とするならこちらのスーパーへと、見事に二択のサービス供給しているわけだ、と少し怖くなった。日本なら「こちらは不健康だけど安いものばかりを取り揃えた低所得者用スーパー、こちらは健康を考慮しているので高価格のスーパー」というような売り方はしないだろう。もちろんアメリカだって「安かろう悪かろうの店」などと宣伝しているわけではないけれど、それが暗黙の了解なのは誰もがわかっているわ

けで。

アメリカの貧富の格差というのは、どんどん広がっているわけだ。お金がある人は、有機栽培に逃げる。そうでない人は、危険な輸入食品を食べるしかない。



こうして写真を並べると、Whole Food と Safeway と同じに見えるが違うのだ。壁と天井の色か？ 何よりも店に入った瞬間のにおい、そこにいる客層が違う。

あとそれから。ホテルの近くにシティーバンクを見つけたので、コロンビア大学出版からこの春届いた小切手を、自分の口座に振込みに。ついであまりに長い間使っていないという理由でいったん閉鎖されてしまったクレジットカードをまたあけてほしい、と交渉もしてみた。昔バージニアに住んでいた時、日本に帰る前、日本に戻ってもシティのカードが使えるかどうかと聞いたとき、たまたま係りだった中国系の若い男がものすごい不遜で乱暴な対応をしてきたので、こちらものすごく腹をたてたのを覚えている。シティーバンクは日本の支店も、本当に感じ悪い高飛車の行員ばかりなので、今回もまた嫌な思いをするのかなと構えて入っていったところ、誰もがニコニコ顔で。これは土地柄、それとも 時代が変わったの？ と不思議だった。

まずクレジットカードの申請ということで、自分の身の上話しをして、今は日本で仕事を持っているけれど、アメリカに旅行するときのために、アメリカの銀行が発行するクレジットカードを持っていても良いかなと考えてる、といったことを話した。アメリカだけでなく、最近の世界は、どこそこに住んでいるけど、こっちにも時々来て仕事をして、というような「インターナショナルビジネスマン」はちっとも珍しくなくなっているの、そういう話しをしても 全く特別扱いされることもなく、不審な目で見られることもない、「ああ、そうですか」と あっさりを受け入れられるようになったのかあ、としみじみ。

少し昔のアメリカだったら、「なんで日本に帰るんだ、アメリカにいるほうがいだろう」とか「日本で仕事探したのなら、もうアメリカに戻ってくる必要ないじゃないか」といった、良く考えればお節介で偏狭なせりふを浴びせられても、驚くにあたらず。ところが、2013年のアメリカ、というか、シリコン・バレーを有するこの地域では、「ああ、日本で良い仕事を 見つけたんですねえ、それじゃあ日本に戻って当然ですよ」というせりふが 若い銀行員の クチからいとも自然に出てくる。「何でもかんでもアメリカが一番」という意識が薄まったのだろうか。アメリカの外にも世界が広がってる、ということが だんだんアメリカ人にもわかるようになったのか。

ちなみに書類を用意する間にこの行員と交わした世間話。彼が2-3日前にみたテレビのドキュメンタリーでは、東京の老舗すし屋のすし職人の話しを1時間半やったそう。最初は、すしの話だけで90分引っ張れるかよと、いい加減にしか見てなかったそうだが、はっと気がついたら全部見てしまった、いやあ

すごいね、日本の老舗のすし屋っていうのは、ほとんど求道者だねえ、と、肩をいからせることもなく、私が日本人だからという気配りもなく、ごく普通にしゃべっていた。ちょっと昔だと、そういう日本がいかかに異質で、異常で、変わった文化かということ、私を相手に説教口調で言い出して、「だから日本で変な国なんだよ」と私に説く、または日本を異常に持ち上げて「いやあ、たいしたもんだ」とものすごい気遣いをして「自分は決して日本を見下していない」と訴えてくれるか、のどちらか。2013年の今では、「いやあ、おもしろかった」というコメントで終わり。若い世代は徐々にオリエンタリズムを克服していると考えても良いのかな。こういう変化は、うちの大学に来るアメリカ人学生たちの態度にも見えていたけれど。

(・・・とここまで書いて、あとで良く考えてみれば、ここは世界中から人がやってくるシリコンバレー。しかも「迷惑な」移民でなく「金持ちの IT エリート」がお客様。中近東だろうが、アフリカだろうが、南米だろうが、インドだろうが、お金をどっさり口座に入れてくれれば上客に決まってる。国籍も人種も宗教も関係なし。そういう対応ができるスタッフを揃えているのだろう。認識が甘かったな。)

ホテル住まいでキッチンがないので、食事はテイクアウトばかりだけど、とりあえず車さえあってそれを使って移動していれば、街はだんだんと自分のテリトリーとなっていく。



Mountain View branch (maybe)

2013/8/17 Sat 19:57

今日でスタンフォード大学での仕事は終わり。アメリカン航空のハンドラーに壊されたスーツケースは、韓国人のおじ(い)さんに、40ドルで結構しっかり直してもらった。コロンビア大学出版からの小切手をシティーバンクに入れにいった際、日本帰国後にいったん取り消されたクレジットカードの再発行手続き願いもしてきた。突然入ってきた来年春の南カリフォルニア大学での講演依頼も確定させた。まあまあ最初の1週間かな。

スーツケースを直してもらったのは、スタンフォード大学の隣町メンロー・パークにある靴かばんの修理屋さん。ネットで、スーツケースを直してくれるところを探して、評判良いところを2-3当たって、行き当たったのが **Menlo Joe's** という、いまだき珍しい感動的に古くさい店。最初に電話をかけたところは、スタンフォード大学隣のショッピング・センターの中に あるお店。愛想のいいおば(あ)ちゃんが出てきて、スーツケースのブランドごとに正規の修理工場に発注するので、手渡しには1週間以上かかるというので、それは困ったという、それならうちから北にむかってドライブして、どこそこを過ぎたら左にまがったところにある **Menlo Joe's** に行きなさい、と電話番号まで教えてくれた。スタンフォード大学キャンパスから北へ車で3キロも走ると、メンロー・パークという小さな町に入る。実はこの街は、あのアップルの創業者スティーブ・ウズニックがコンピューター開発に着手した土地なのだけど、全国展開し

ているチェーン店などはほとんど見当たらず、昔ながらの家族経営をやっているようなお店ばかり。車を止めて歩いてみても、ちょっと昔の日本の商店街のような感じに、おもちゃ屋、文房具屋、金物屋、など雑多な店が並んでいて、歩いてるだけで楽しくなるような、今どきこんな町はないぞというような。メンロー・パークって、一体どんな街なんだろうと気になって調べてみたら、アメリカでも有数の「金持ちと高学歴（コンピューター関係）」の人々が住む土地だった。なるほど、そう来たか。

スーツケースを直してくれた店の外観、グーグルから探してきたので貼っておこう。次の2枚は靴の修理店というはアメリカでもこんな感じというイメージ写真。Menlo Joe's は、もっと汚れていたし、そこで働くのは、一人はイタリア人かユダヤ人のおやじさん、もう一人は韓国人のおやじさん。どちらも職人という感じの人。

私がコロンビアで大学院やってた 1980 年代の後半は、大学周辺にあったのはこういう店ばかりで、そこには職人かたぎで 家族代々経営している靴直し屋、金物屋、食堂、ケーキ屋、チョコレート屋、本屋、文房具屋、などが立ち並んでいた。21 世紀になると、スターバックスだ、全国展開してるチェーン店の本屋や文房具屋、食べ物屋などが押し寄せてきて、昔の面影が全く無くなってしまったのだけれど。

なるほど、Menlo Joe's にこんなに感激したのは、昔コロンビア大学の周辺にもこういう店あったなあ、と思いがよみがえってきたからか。



よくあるダウンタウンなのに印象的



まあこんな感じで

2013/8/17 Sat 22:40

アメリカの若いものも、スマホ中毒で、スマホ画面見ながら歩いている。バカ母親が、スーパーの駐車場で、自分はスマホの画面を見るのに熱中し、子供の手をつないでいなかったのが、突然子供が走り出した。こういうところはほんとおそらく世界中で同じ。既存の文化や伝統に関係なし？ とすればこういうのが 21 世紀に登場してきた世界が普遍的に共有する「ハイテク文化」というものか。

明日からモンタレーに移動するので、ホテルのランドリーで洗濯。洗濯機とドライヤーが 1 台づつしか

ないので、滞在している家族で土曜の夕方に洗濯するものはいないだろうと、彼らが食事に出ていく時間を見計らって、すいている時間を狙った。確かに楽。ところがなんと、ここのフロントで働いてる若い男が、自分も洗濯機を使いたいと言って、ビニール袋に どっさり洗濯物を入れてやってきた。「私、まだ両方を使って、全部終わってないのよねえ」と言ったら、「あ、大丈夫、順番に交互に使えばいいじゃん」と。ゲストに譲るとか、そういう発想はない。百歩譲ってホテルの客室関係のものを洗う・・・しても、客用のランドリーは使わんだらう。やはり日本を一步出ると、サービス関係は油断もすきもあったもんでないと実感。

2013/8/18 Sun 13:46

今夜は、バーベキューのテイクアウト。ポークとチキン。それに豆の煮たのと、ケイジャンポテトというテキサス風。バーベキューは、マンハッタンに住んでいた大学院生の頃は全く知らない食べ物だったけれど、中西部のサウスベンドに暮らしているとき、はまった料理。白人が調理するバーベキューと、アフリカ系が調理するバーベキューで絶対に違う、後者のほうがおいしい、とアフリカ系の同僚に話したら、うれしそうだったのを思い出す。だけど今日食べたのは、どちらでもないような。カリフォルニアの土地柄か？時代の流れで変化が起こったか？真相を知りたい。

食べてお腹いっぱいになったあと、たまっていた仕事メールを、カリフォルニアと、ウィスコンシンと、スウェーデンに打っているうちに、自分が今どこにいるのか訳わからなくなってきた。メールで仕事をする限りは、自分がどこにいるかは本当に関係ない。だから日本に戻っても、アメリカ向けに仕事を続けてる。



美味し。ちょっとメキシカンがかかっていたかも。

2013/8/19 Mon 16:52

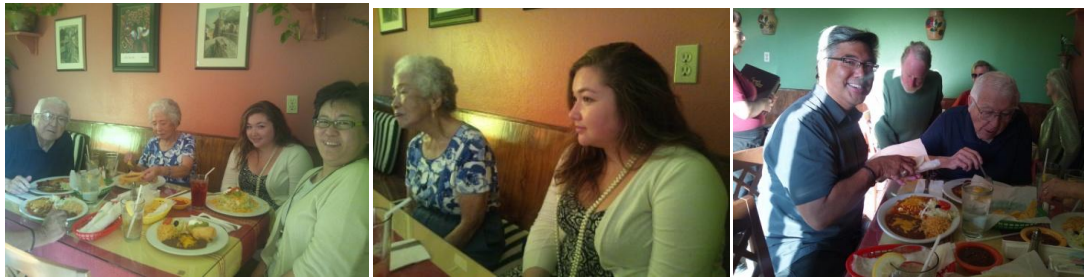
今さっき、モンタレー空港隣のホテルに戻ってきたところ。11時過ぎまで、マミちゃん宅にいて、真っ暗な道を一人でドライブしてきたのだけど、実は道がわからなくなって迷ってしまい、モンタレー特有の海からの霧が濃くなる中で、道端に止めて地図をチェック。(ナビなんぞ日本でもつけていないので、こちらにきても搭載させず。) ちょっと怖かった。おどろおどろしくて、化け物がでそうな感じで。明日の夕方にはスティーブンと上の娘のレイチェルが、ケープコッドからモンタレーに里帰り。

スティーブンって最後に会ったのはいつだ？ ジョージタウンの大学院生だったとき遊びに行ったのが最後くらい。下の娘のハナも来ることになっていたけれど、幼なじみの男の子が 交通事故で前日に死亡。それで急ぎょ彼女はケープコッドに残り、スティーブンとレイチェルだけでモンタレーに来ることに。お母さん

のジョディの状態は、あまり良くないそうで、化学療法で髪の毛は全部抜け落ちてしまっているとか。

.....

会ってみると、スティーブンは昔と全く変わってなかった。ちょっと感激して、そう言ったところ、レイチェルがいかにも年頃の娘が父親にするように「けっ」とばかり鼻先で笑ったので、でもこれは本当のことだから、とスティーブンを擁護。ただ普通にしている、汗がだらだらと滝のように流れ落ちるのを自分でも気にしてた。男の更年期障害か。モントヤ叔父さんは車椅子から立てなくなっているけれど、とても元気で笑顔は全く変わらず。マミちゃんも介護疲れとかなさそうで、2人とも精神的にめげるとかいうことは全くないように、あっけらかんと今までどおり。



今回もモンタレー観光には時間切れ。せっかくスタンフォードからレンタカーで走ってきたのに。以前にもサンフランシスコからモンタレーに車で移動したことあったけれど、今回気がついたのはフリーウェイ沿いにやたら家が建ったこと。山の中を通過してモンタレーに向かったのだけど、今回は住宅街とショッピング・センターが交互にフリーウェイの両側に出てきて驚いた。それよりもっと驚いたのは、モンタレー半島が見えてきてシーサイドへの出口で降りたあと、地図を使わずモントヤ家に到着してしまったこと。特徴ある逆U字の送電線が見えたので、それを目指して進んでいったら、見事に **Fremont Avenue** につきあたった。土地勘は残っていた。モンタレー空港にたどり着くのに迷ったのは、そっち方向には全く不慣れだったので。



考えてみれば、私のアメリカ生活はここで始まったわけだなあ。おばあちゃんも一緒にパークレーからサン

フランシスコに行ってジョーに会ってきたときの帰り道。このあたりから見た モンタレー半島の家の灯が本当にきれいだ、宝石みたい、とおばあちゃんが喜んでいたので思い出す。

出発の朝は5時にはチェックインしなければならず。いくら空港となりのホテルでも車を返したりしなければならぬので4時半にはホテルを出た。当然真っ暗。スーツケースを車に運ぶので、部屋を出たり入ったりしていたら、ホテル周辺に居座っているのか、ホテルで飼っているのか、黒猫が慣れた感じで、さーっと部屋に入ってきてしまった。当たり前だが、英語で、出なさいっ！と小声でどなる。なんだって猫にも英語で対応するかなあ、と少しだけ情けなかった。つまり英語圏に暮らす猫にとっさに配慮した、ということなのか、と。これがネズミだったり、ゴキブリだったら、どうしていたんだろ。

2013/8/21 Wed 22:38

火曜日、いよいよメリーランドへ移動。カリフォルニアから飛行機で6時間以上かけて東海岸のワシントンに到着。飛行機で6時間といえば、ほとんど海外旅行。シャトルバスでダレス空港からシルバースプリングの長期滞在用スイート・ホテルへ。アメリカ時代の最後を過ごしたマックリーンのあたりを通り過ぎたときは胸がキュン。スタンフォードで過ごすのとは、やはり違う。なんと言っても東海岸は古巣。カリフォルニアのより全然おいしいベーグルの朝食にも涙目。



高架線のメトロが Tyson's Corner から Dolly Madison Parkway あたりまで延びてきていて驚いた



これが仮のすまい。 すっかりくつろぎました。

2013/8/22 Thu 17:22@ Silver Spring, MD

カリフォルニア以来、車で走っていても やっぱり目につくことが多いのは日本車。ホンダとトヨタがぶっちぎり。だけどアメリカ車も増えている。韓国車は カリフォルニアでは少ない。メリーランドのこのあた

りにきたら、多少目につくほどに増えてきたけれど。

アジア系の食文化で人気があるのは、やっぱりスシ。高級レストランでない、テイクアウト用の中華レストランはボンビーの鉄板の味方。全米どこにいても同じような店構え、メニュー、味。誰か元締めがいるとしか考えられないのだけれど。

Mountain View の金持ちのコミュニティーでも、ちょっとおしゃれなスーパー (**Whole Foods**) に置いてあるのは、スシ、そば、うどん、などなど。韓国の食材はない。キムチが今や人気って？ 目立つところには売ってない。ここの **Silver Spring** の安いスーパーの **Oriental Foods** のところにあるのは、日本のカップ麺と、タイの麺、それくらい。

日本のネットで目を通す韓国系の新聞だと、今やアメリカでは韓国文化は爆発的な人気、**K-Pop** だけでなく食文化でもアメリカ社会を圧倒、というようなことばかり書いているけれど、こちらに来て、そういう実感はない。

今朝、ホテルのロビーで朝ごはん食べてて モーニングショーを見てたら、「一大センセーションを巻き起こした **Psy** というのは、どこの国の出身でしょう」という質問が出てきて驚いた。視聴者からの答えを待たばよかったのに、なぜか待たずに席を立ってしまった。まずかった。日本、中国、北朝鮮、ベトナム、とかそういった答えが出て不思議でなかった？ 要するに、アメリカ人にとっては 単なる「変な東洋人」でしかなくて、国籍など関係ない、「東洋人」のくくりで十分、ということなんだろう。

韓国政府が国の予算をつぎ込んで、何とか「アジア人の中で飛びぬけてかっこいい韓国人」といったイメージを作ろうとしても、やはり駄目なんだろう。少なくともアメリカでは。

日本人のほうが、そのこと（「かっこいいアジア」を売り込もうとしても何かと障害が、ということ）をとっくの昔にわかってしまっていたと思う。

中国人は、**GDP** 世界第2位になった時点で、「欧米人」の仲間入りを果たした、または「いけてる欧米人の仲間入りをしたい」という思いが強まっているのだろうか。そこらへんはどうなのだろう。

この欧米諸国との向き合い方、挫折の仕方、譲歩の仕方、がまんすること、などなどにおいて、日本人はアジアにおける先駆者。100年以上その試行錯誤をやってきて、もう最近では「悟り」かけている。「どれだけ気負っても、そうそう簡単に受け入れられん」ということを実感して、別の道を探って今に至っているような。

今のアメリカで目立つアジア人といえば、南アジア人（インド人、パキスタン人等）、中近東人。 **LAX** から **ワシントン** に飛んでくる飛行機の中は、彼らだらけだった。そしてこの人たちは、ずばり態度が大きい。なんていうか、アジア人としての遠慮とか、「すみませんねえ」というような卑屈さなどは皆無で、ここがアメリカだろうがなんだろうが、あたしは自分流でいくわよ、と民族服を着たり、ベールを頭に巻いたりして、「文句あつか」とばかりに挑発的なものごしで、ずんずんと歩いてた。

それをみて、すごいなあと思った。こういった、 **Jefferson** だ、**Original 13 States** だ、**Pilgrims** だ、**Puritans** だ、みたいなことを一切徹底的に無視して、強引なまでに自分たちのテリトリーを作ってしまうおうとする連中を、アメリカがこのまま入れ続けたら、この国はどんなことになるのだろうか、今回しみ

じみと驚いた。

ワシントンのダレス空港でターミナルに移動するバスの中で、どうみても絶対 100%アジア系アメリカ人のファッションと物腰と英語をしゃべる若い女が なんと中華人民共和国のパスポート持っているのを見て。これはきっと政府高官か大金持ちの娘が、ずっとこっちでやりたいように生活してるけど、さすがに国籍だけは中国のままでいるというケースなんだろうな、とも思った。とにかくアメリカに暮らすアジア人が (も) 多様化している。

だからアジア人の「居場所」は広がる一方なのかもしれない。

今回私が心配してたのは、アメリカを離れて7年もたってから戻ってきても、もうアメリカ暮らしをしている人間には全く見えなくなっていて、何も知らない観光客扱いされるかなあ、そうしたら違和感を感じて、ちょっとは悲しいかなということだった。しかし日大のキャンパスで毎学期アメリカ人学生を教えて、アメリカとの接触が続いているせいなのかどうか、ローカルのように振舞って、日本から来たという意外な顔をされて。アメリカに戻ってきて1週間以上たって、変わらないアメリカを感じる時はほっとする。というか、それだけアジア人を、より一層「当たり前」のように受け入れる環境になっているということかも。

.....

今回、「ああ戻ってきたなあ」という感慨もあるはずだけど、「戻ってきた」ということを忘れるくらいに、こちらの生活のリズムに入っていって、むしろ「日本にいた」ことを忘れることもあった。

毎年サイパンに行っているのも一因かもしれない。成田から3時間半飛んだところにあるサイパンはアメリカの一部で、建物やら街の雰囲気やらにアメリカンなものがあるとすれば、サイパンに行くことで、日本とアメリカの距離が自分の中で縮まってきていたのかもしれない。

外国人が成田空港に着くと醤油のにおいがすると感じる、ということを知った。アメリカのにおい。アメリカのにおいというと、薬品くささとか、防臭剤のようなもの。アメリカから 戻ってきた頃、三島のマンションにまるのが入ってきたら「アメリカのにおいがする」と言ったことがあった。カリフォルニアでは、昔同様 *Juniper* のいいにおいが漂っていたけれど 今回シルバースプリングに来たら、どことなく、くさい。ちょっとくさったような。マンハッタンも、こういうにおいだったような。ハドソン河とイーストリバーにはさまれて、島の先端は大西洋に面している地形だけど、夏になると泥沼 (もっというならドブ) から漂うような においが、アスファルト道路に照りつける太陽熱で一層強烈になるような。このあたりも、チェサピーク湾はすぐそこにあるけれど。

それにしてもアメリカの物価、恐ろしく高い。円高ということもあるけれど、日本の感覚で言えば、これで国民から文句が出ないというのが不思議。日本に救いがあるとすれば、一抹の **Creativity** と **Imagination** において (?) アメリカに戻ってきて、日本が **Creative** で **Imaginative** と感じるというのも驚きだけど。

アメリカでは、今日もどこかの学校で、**Gunman** の発砲事件が。昨日は、ルイジアナだかテキサスで、「退屈だったんで人を殺そうと思った」と、3人 (白人1人、黒人1人、もう1人は?) が オーストラリア人を撃ち殺してしまった事件が。それにしてもテレビの報道だと、被害者が「オーストラリア人」という

点で、事件の深刻度は軽くなっているような感じがした。つまり被害者がアジア人だったら、人種差別という話題が入ってきて事は面倒になり、そのニュースを聞く白人系アメリカ人にしたら「やれやれ」と心の中で舌打ちしたくなるだろう。しかし今回は「幸い」にも被害者は白人。人種差別とかのやっかいな案件はとりあえず「なし」。「ただの」殺人で終わらせられる。もっともオーストラリアでは、アメリカ商品をボイコットしようという声も上がってるらしい、とほとんど無表情に、ニュースキャスターがしゃべっていた。

2013/8/24 Sat 08:59

今朝起きたら昨夜からの激しい雨がまだやんでいない。ホテル向かいのショッピングセンターのスーパーで15ドルの軽量折りたたみ傘を買った。ところが、レンタカー（マツダ3）のタイヤ圧不調のサインが突然出てしまい、公文書館で仕事する時間を減らして、夕方レンタカーのオフィスに車を持っていった。すると走行距離6万キロくらいの「中古車」から、3万キロの「少しまし」なマツダに変えてもらい、運転がずっと楽に。そもそも中古車のほうはハンドルが重く、どうも走る感触が悪く、これで大丈夫かと思っていたのでほっとした。唯一の気かりは、「少しまし」な方のマツダのカープレートはルイジアナ・ナンバーということ。壊れたほうのは、ニューヨーク・ナンバーだった。「ルイジアナから来たアジア人」というのは、ないことはないだろうが、ちょっと変かな。いや結構凄みがあるかもしれないな、こんなナンバープレートの車をワシントンで運転するというのは、いかがなものか、などなど。



Miata は右

Mazda はかっこいいと、1990年代半ばくらいから、教えていたノートルダム大学の学生が言っていた。しょっちゅう教えている内容に突っかかってきたので、日本が大嫌いなんだろう、と思っていた男子学生があるとき“Buy Miata”と、リアクションペーパーに書いてきたのを、今でも覚えている。といっても、今になってもどこがどうかっこいいのかわからないけれど。そういえばこの学生だけでなく、本当にいろいろな学生が、日本人には全く理解できないような「想像の斜め上に行くような」方向から、とんでもない言いがかりをつけて、日本攻撃をしてきて、「だから自分は日本が大嫌いだ」ということがあったなあ。大抵は太平洋戦争絡みの言いがかりと、戦後の経済成長の「ずるさ」。大昔のように感じるけれど、確かにそんな時代に、自分はアメリカで日本やら日米関係やらについて教えていたわけだ。無駄だった・・・？

2013/8/25 Sun 10:51

昨日も国立公文書館へ行ったけれど、朝何も食べずに出て行ったところ、土曜なのでカフェテリアが閉まって、仕方がないのでまた車で外へ出て行って、セブンイレブンでピザ1枚（1ドル）だけ買って食べて、

公文書に戻り仕事を続けることに。昔と変わらず公文書館の周囲は相変わらず見事に何も無い。

公文書館は、スタンフォード大学と同様、スマホ、デジカメの持込自由になって、許可さえ受ければ好きな書類を好きなだけカメラで取り放題で、紙にコピーする必要はなくなった。コピーは有料（20セント？）だけれど写真データを作成するのはもちろん無料。もうすでに何百枚と写真を撮り続けているけれど、スマホのカードなので、それこそ親指のつめの大きさにデータを詰め込んでいる。時代は変わったものだ。これぞというものは紙媒体で保存したいのでコピーを取っている。



2013/8/25 Sun 12:21



ワシントン DC では今からちょうど 50 年前に、キング牧師がアフリカ系の男たち（当時は女はまだ不要だったか）に、差別に抗議するため首都に結集するよう呼びかけたら、ほんとに 全国から何十万と集まってきたてしまい、それが 1960 年代の公民権運動に勢いをつけた、と いう「ワシントン行進」が起こった。今年はその 50 周年を祝う年で、記念行事で今週末は 首都ワシントン周辺はすごいことになっている。

実はこのホテルも、チェックイン当時から、お客がやけに金持ち風のアフリカ系の家族、夫婦ばかりだったので、このホテルには特別な由縁でもあるのかと思っていたら、その行事に参加する人たちが全国から結集していた様子。明日リンカーン・メモリアルの周辺に行くと、この歴史的な行事の様子を見たい気がするけれど、それは大晦日や元旦に鶴岡八幡宮に行くような、隅田川の花火大会に行くようなもの。行けば 生オバマも遠くからでも見られるかもしれないけれど。日曜は公文書が閉まるので、行かなくていい貴重な日。1 日中寝ることにして「ワシントン行進」の歴史的意義は、夢の中で考えることに。

2013/8/25, Sun 14:44

世界一巨大らしいアメリカ国立公文書館では、戦後日米関係に関する CIA の元機密文書をスマホで取りまくっている。どうせ堂々と公開しているものは見られても不都合ではないという点でさほど価値がないものばかりなのだけど。CIA の機密文書から見る日米関係と、日本のマンガ文化から見える日米関係。どちらに「真髓」を語る力があるかは 簡単には言えなさそう。それにしてもわからないのは、日テレ創始者の正力という人物。親米には到底なれない育ちと経歴なのに、なぜ戦後あそこまで野球だ、アメリカの技術

だ、原子力だ、と日本に導入させようとしたか。そしてそういう人物を CIA が執拗に追い掛け回していたという茶番。 CIA の見立てでは、正力がアメリカの歓心を買おうとした理由は「権力欲と名誉欲」と。それにしても CIA というのも、自分の国アメリカに それほど自信がないような、どうせ世界中は自分たちを嫌ってるのだし、というような前提に立った屈折した分析ばかりやっているなあ、それで本質を見極め損ねているのでないか、というような感想。

戦後日本の文化発展の流れを考えるに、決して アメリカを最優先にしていたわけではないことはわかる。文化外交、文化戦略にしても、全方向戦略で、対米依存から離れようとしていたこともわかる。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1966/s41-contents.htm>

一方アメリカの文化戦略は、確実に日本に届いたけれど、それと同時進行して、ソ連、ドイツ、フランス、アジア諸国が きそって文化攻勢をかけてきて、日本はそれに応じていたわけで。ジャズと同時に、シャンソン、イギリスのロックなども入ってきている。特にイギリスから入ってきたロックの勢いは1970年代以降も衰えなかったし。文化交流・芸術分野での留学先には、ソ連、フランス、イタリアなどが選ばれたはず。アメリカを受け入れたからといって、他を拒否したわけでない。TV番組にしても、当初は（否応もなく）アメリカ番組を導入。しかし同時に、国産番組の制作を急速大量に開始。当時の新聞のテレビ欄をチェックすれば、ヨーロッパ からも TV番組を輸入していることがわかる。アメリカ TV番組（プロパガダとしてのアメリカ大衆文化）のみには決して依存していない、はず。

そういえば昔イタリアからスイスのベルンに列車で入ったとき、カップルと向かい合わせの席になったら、のカップルがなぜか日本に行ったことがあって、しかも日本のことを知っていた。イタリア人というのでお世辞で「小さい頃トッポジージョを見てました」といったら、「トッポジージョだじょー」のような事をイタリア語で言った。その声色が、日本版のものと全く同じだったので、さらにそれを言ったら、彼は喜んでいた。「トッポジージョの歯みがきでたよ、いちごでみがこう、シュッシュュッシュュッ・・・」というコマーシャルもあった。あとはサンダーバードとか、時代下ってムーミン。スヌーピーが攻めてきたのは、いつ頃だったか。



スヌーピーの画像は
著作権が絡んでいるのか
コピー出来ない！

2013/8/26 Mon 11:55

ひさびさの日曜日にたっぷり寝て、ご機嫌気分ですターバックスの濃いコーヒー飲んだら、やっぱりおいしい。さすがにテイクアウトの食事には飽きてきたので、スーパーで何か買ってきて クッキングしようと、夜9時ごろホテルを出たら、もう顔見知りになったフロントのおばさんから「あら今から仕事？」と言われてしまい。三島でもワシントンでもどこでも、私は「夜の女」として知られるのである。もっともクッキングとえらそうなことをいいつつ、まず初日は電子レンジでできるマルちゃんの焼きそばに、昨日とおとといの中華のテイクアウトの残りものと山盛りサラダで済ますあたり。



2013/8/26, Mon 18:13

今回は、日中韓それぞれのアメリカにおける存在感を良く考える。日常文化に浸透しているのはやはり日本かな、と思う。中国は、もっぱら低所得者層にアピールし続けている部分があることは否めない。20年30年前と全く変わらない店構えとメニューでやってる中華料理の店。びっくりするくらい、やる気がないというのか、がんこというのか、何らかのマフィアが仕切っているのか。店の内装といい、料理する兄ちゃんたちといい、注文をとる姉ちゃん、おばさんといい、なんか20年前から全く同じ人間が年を取らないままやってるんじゃないか、と思わずにいられない。しかもメニューも1ミリ、1グラムとも変わっていない。



McDonald's だって、時代の流れにあわせて **healthy** とか **ethnic** とか工夫しているのに、なんだってこんなにやる気ないことを続けているんだか。それでいて出店するとなれば、廃れたブロックを見逃さずそういう区域をしっかりと選んでいる。おしゃれになって、もうちょっと **upscale** なところにカフェ的な店を出しているところもあるけれど、そうすると寿司やタイ料理などを一緒にして、アジアン・エスニック調にしてしまい、もはや中華ではなくなる。しかも中華系の食べ物は、スーパーマーケットのデリ・セクションでも今ひとつ振るずせいぜい春巻き程度。日本の食文化は、スシとカップ・ラーメンで健闘して、どこのスーパーでも絶対的な存在感。しかも人種と階級を超えたアピールを持つ。（いや中産階級以上に限定か？）

スタンフォード大学隣の **Mountain View** にスシ文化が広まっていたのは当然として、**Silver Spring** の普通のスーパーマーケットでも スシをパックで売ってる。そして アフリカ系のおやじさんが、それをしげしげと品定めして、1パック買って行く。カップラーメンは、もう全米どこでもなくてはならないものになり、**Nissin** が圧倒的な存在感。

韓国文化はどこにもない。Kia と Hyundai と。ホテルのテレビは圧倒的に **Samsung** または **LG**。あとは

スマホ？ しかしキムチはまだまだアメリカには浸透してないし、ましてや韓国料理屋はない。テイクアウトの中華料理ほど低所得者層にアピールするわけでも、寿司のようにお洒落な食べ物になっているわけでもなく、ターゲットになる所得層が特定できていない感じ。Palo Alto には Korean BBQ があつたけれど、さびれていて近寄るのは怖かった。

アメリカにおける東アジアの存在感というのが、まだまだ不明瞭。

昨夜テレビみてたら、Ninja Warriors という要するに日本の Sasuke をアメリカ仕様につくった番組をやっていて、ついつい見てしまった。日本のほうが娯楽要素が強いし、ちょっと心温まる場所もあるし、なにより MC がお笑い系なことが多いので、笑わせる要素もあちこちに用意してるけど、アメリカの方はプロレスを見てるような、笑いなどのかけらもない「真剣格闘技」で、失敗したら待ってるのは「死」というくらい壮絶な感じで。これを見ているアメリカ人も、相当真剣に手に汗握りながら本気で見ているのだろうか。としたら画面に向かう姿勢が全く違うなと思った。アメリカのほうが何かと「本気」「真剣」「余裕がない」のだろうか。

ちなみに出演者の夢は、アメリカ予選に勝って、日本の「みどーりやーま(?)」で行われる最終決戦に出ることだ、と知ってもっと驚いた。なるほど、Sasuke のフォーマットをアメリカのテレビ局に売ったとき、この試合に勝ち抜いた場合の最高栄誉の定義は日本側が握るというようなことを契約の一部にして、それにアメリカ側も同意したのだろうか。だとしたら、時代は変わったものだ。

もう1つ、30Rock というテレビ番組を見ていて考えたこと。ちなみに、アメリカに来てからロクな番組を見てない。古い番組の再放送ばかりやって、新しい番組などおよそない。何をみてもつまらないので、History Channel とか CNN とか仕方ないので見る。鉄板は、深夜～早朝の Married with Children。または King of the Hill, The Simpsons などのアニメ。アメリカでも、もう新しい番組を作る制作費が枯渇しているのでは。そんな状況の中で、唯一面白いと思えた再放送でない番組が、30Rock。

30Rock のレギュラー出演者であるアフリカ系の Tracy というコメディアンは、ゲイっぽくて、すぐ腹を立てるので、主人公は彼を何かとおだてないとならない。Tracy は日本が大好き、という設定になっているので、日本好きなところをうまくすぐって「そういう風にすれば、日本でも人気間違いない～」とおだてて、すっかりその気にさせてしまう、というプロットだった。確かに Tracy の楽屋には、日本のポスターとかがべたべた貼ってあつる。アフリカ系は日本が好き、というのは確かに「あるある」ネタなのだなあ、と実感した。日本好きを嘲笑しているわけでもない、と感じたが、先学期アメリカ人留学生から聞いて知った Weeaboos のこともあるし油断はできない、と。ちなみに Weeaboos とは、オタク文化から入って日本が好きになりすぎて、人種を変えてでも日本人になりたいがるような、極限を超えてしまった絶望的な「ヘンタイ」のことを呼ぶらしい。「面白いねえ」と、その言葉を口にしたところ、アメリカ人の男子留学生たちから真剣に「その言葉はとっても悪いニュアンスがあるから、使わないほうがいい！」とアドバイスされたけれど。その「とっても悪いニュアンス」というのが、いかほどのものなのかが分からない。日本語に置き換えるとどの程度の悪い意味なのだろう。



[Things Tracy Jordan says on 30 Rock](#)

[February 16, 2010](#)

“I love you, too, son. Stop it. Stop...patriciding. It's me. There's nothing to be freaked out about. That's just a

Japanese sex doll in daddy's bed. Now you listen. You don't have to ever worry about me leaving because I'll always be there to take care of you. And there's something else. If anything ever happens to me, you, and your brother are going to go to jail."

2013年夏のアメリカ社会には、東アジアの存在感が減っている気がする。そもそもアメリカが太平洋戦争に勝ったということは、アメリカが太平洋を経てアジアに進出する「権利」を得たつもりだったのかもしれないが、私の著書 *Imperial Eclipse* で示したように そうはさせなかったのが日本の戦略だった。それでアメリカの進出は太平洋までで止まってしまい、ユーラシア大陸への進出は出来ず、かろうじて韓国のみを獲得したわけだ。としたらアメリカはなんとしても「最大の戦利品」である日本だけは確実にアメリカのものになるよう、アメリカ化させようと考えたのだろうか。それともそれは「無理」と早くからあきらめていたのか。私の *Trans-Pacifid Racisms* では、ジャップなどを相手に「そんな気もなかった」という話しにしていたのだが。本気で日本を、アメリカ戦略の傘下だけでなく「アメリカ文化圏」に組み入れようとしたのかどうかは、これからの研究で。アメリカ人は、世界中の、ヨーロッパも含めて「いけていない」と彼らを感じる人間たちが、果たして自分たちの「超絶にいけてる」アメリカ文化を受容して、自分たちがするように、おしゃれに使いこなせる、と考えていたのかどうか、ということだ。つい最近まで、イギリス人も含めてヨーロッパ人までをも「ださい」と見下していたくらいだから、ましてやアジア人や、ということころだろうなあ。そうしたら、**Americanization** というものに本気だったのだろうか。

太平洋上のハワイ～グアム～フィリピン～サイパン の4つの島は「アメリカ」にした、と言えるのかどうか。サイパンは微妙なケースだ。そもそも太平洋（少なくとも北太平洋）は **American Lake** と言えるほどの文化圏になったのか？ かつての「地中海文明圏」のような存在感があるとは思えない。「太平洋文明圏」なんて聞いたことがない。戦後日米関係を考えるに、日本は太平洋をアメリカ文明圏にする手伝いをしたのかどうか、という問いを設定してみても 良いかもしれない。

今後中国が太平洋に進出していくとしたら、軍事力だけでなく文化的にも太平洋を中華文明圏にしていこうと考えているのだろうか。もっとも「中華文明圏」とはそもそも何のことか未だわからない。太平洋地域に孔子思想を広めて儒教文化圏にする、ということでもあるまいに。まして中国共産党のイデオロギーがハワイ・グアム・フィリピンを席捲するというのも非現実的な気もするし。**Made in China** の工業製品が「中華文明」という 21 世紀の新しい世界文明を牽引しているとは到底思えない。第一アメリカに どういう形であれ「中国文化」の存在感が広まってるようには どうしても思えない。

アメリカのメディアを見ている限り、中国＝汚染、危険な食品、人権侵害 といった程度の発想しかなく。アメリカが目下のところ最大の懸念にしているのは中東問題で、「中国の台頭」「中国の脅威」など、アメリカのメディアは真剣に扱ってはいない。アメリカ人にとって最も身近な中国は、あくまでも街のさびれた一角に立ってる **Panda Restaurant** とか **Canton House** とか **China Express** などの中華料理屋。まして中国製品がアメリカ市場を席捲しているという危機感など、これっぽちも感じていない。

日本人が日本で感じてる以上に、アメリカにとって日本は「アジアの中でいえば、近い存在」になっていたということか。

2013/8/29 Thu 13:14

調べもののほうはゼロから始めたけれど、だんだんと何を見るべきかわかってきたようで、少しは気が楽に

なりかけている。明日もあさっても土曜も公文書館へ。日月は、こっちは 連休。アメリカに来て最もゆっくりできる機会に。

2013/8/29 Thu 13:51

ホテルでは月火水はちょっとした夕食バイキング（無料）が出て大変好評。アメリカでは「夕食付きのホテル」というのはものすごく珍しいと思うけれど、「夕食が含まれて普通」という文化圏に旅行したビジネスマンなどの意見を取り入れるようになったのだろうか。網焼きのしっかりしたハンバーガーに、野菜サラダ、ポテトチップとキャロット・ケーキにフリー ドリンク。ある日はメキシカン・タコス。別の日はミートソース・マカロニ。アメリカでは十分に立派な夕食メニュー。ゲストがみな目をぎらつかせて、本気出して、バフェー・ルームに群がっている。そういう私も。収穫品をのせたペーパープレートを手両手に抱えて、エレベーターに乗り合わせた子供と、にやっと笑いあった。「うれしいよねえ」「うんっ」てな感じで。



2013/8/29 Thu 15:30

今回アメリカに戻ってきて あらためて気がついたこと

1) なんだかんだで アメリカ人はマナーが良い。

道をゆずる、スーパーの通路でかちあったら互いに笑って譲りあう、階段でも昇ってくるのと降りてくるので、かちあいそうなら、先に気がついたほうが相手に譲る。車は特に、互いに譲り合うのが鉄則。

「どうぞ、どうぞ」と譲られたら、遠慮なくさっさと対応するのがマナー。見てみぬふりして、割り込みとか、自分が先とか、そういう恥かしいのは、あまりない。もちろん乱暴なルール知らずは、こちらにもときどきいるが、何より歩行者は絶対優先。歩行者を見たら何がなんでも止まる。歩行者に対してしらん顔なぞしない。三島みたいに、見てみぬふりして、さあっと運転して逃げ切るようなことは絶対にしない。徹底的に歩行者優先。申し訳ないくらいに優先。何がなんでも優先。

2) なんだかんだで、アメリカの道はきれいだし、ごみなぞも落ちてない。

今回マンハッタンに行くかどうかは決めかねているが、ごみだらけで、ジュースみたいな液体で道路が汚れてる状態というのは、全米広しといえどマンハッタンくらい。おそらく、旅行者や移民が汚しまくっているのではないかという気が。なぜマンハッタンが、アメリカ中から馬鹿にされるかということ、道路が汚いからなのだなあ、と今さらながらに気がついた。私自身、中西部のサウスベンドに暮らすようになってからマンハッタンに戻ると、服が汚れるような気がしたものだし。マンハッタンから戻ってくると、来ていたジャケットなどをドライクリーニングに出して、「マンハッタンで臭いがついたみたいだから」

と説明すると、お店のおばさんに「そりゃそうだ」という顔をされたものだわ。

一度、シカゴから飛行機に乗り、昼ごろにニュージャージー側から今はなきワールド・トレードセンターのほうを目指して徐々にラガーディア（ニューワーク？）空港に降下していったことがあるけれど、マンハッタン島上空が禍々しい灰色の巨大スモッグで覆われているのを目の当たりにして、ぎょっとなったことがある。たしかあれは永住権を取ったあとか何かで、調子に乗って「マンハッタンにお里帰り」したときだったのでは。それですら「えらいとこに住んでいたんだなあ」と感慨深かったような気がする。

Mountain View など Stanford 周辺は異常にきれいだった。ホテルでは常にゴミ箱を空にしていたし、道にゴミなども落ちていなかった。ふと気がつくと、College Park 周辺に来て、やはりゴミなどどこにも落ちていない。道路にも、建物内にも。ゴミはポイ 捨てしないということか。気がつけばゴミ箱もあまりないので、日本と同様ゴミになるようなものは、やはり持ち歩いているのだろう。Archives の中など当たり前だけど、どこもピカピカ。ゴミ一つ落ちていない。

1) と 2) を足すと、今日本のネットで話題の、いわゆる「民度」の問題になるわけだけ。これまで考えても見なかったが、アメリカ人の「民度」というのも相当に高いわけではないか。

もちろん例外もある。こちらに来て早々に、ホテル近くで交通事故があったし、やはりこの近くの Popeye で白昼、客がたくさんいるところに強盗が入って金を盗んでいったり、Virginia の McLean のまあ中流の上くらいの住宅街で、女子高校生が夜帰って来ず、行方不明の捜査願いを出していたところ、翌日か2日後か自宅周辺で遺体で見つかった、などなどのローカルニュースは途切れない。しかし三島沼津周辺といえど、最近はどうかできないし、何が起こるかかわからない。

犯罪は起こっているけれど、そういう犯罪 から生活を守ろうと団結しているコミュニティと、そういう犯罪許すまじという意識は、アメリカにも確かに存在している。当たり前のことだけれど、昔は特に気がつかなかった。日本に戻ってきて「道がきれいだな」と注意をはらうようになり、さてアメリカはどうだったっけと思い出しても、はっきりとしたイメージが出てこなかった。それで今回意識してみたら、きれいだったことに始めて気がついた。そもそもトイレだって、どこにいてもきれいに使っているではないか。「アメリカは（マンハッタン以外は）きれい」なんて、こちらに住んでいたときは全く考えなかった。

3) Target でTシャツやサマー・ニットを買った時、南アジアあたりから移民してきた感じのレジの若い女（というか小娘）が、英語が下手で、何を言ってるのか全くわからない。それで遠慮がちに聞き返したところ、「何よあんた英語わからないの？ だめねえ」と鼻の先で笑われた。このたくまさというか、図太さというか。大したものだと思った。昔からそうかもしれないが、古巣を捨てて、海を渡ってアメリカまで移民する人間たちというのは、そもそも性格や人間性に共通するタイプがあるものなのか。

こういうことは、自分がアメリカに住んでいた頃から実感していたと思うけれど、今回さらに考えたのは、こういう21世紀の新移民たちも、何年もかけて、いつか「アメリカ化」していくのだろうか、そして「真性アメリカ人」になるのだろうかということ。特に今回、アメリカ社会における人種の多様化が深化していることを目の当たりして実感しているので、そうなると、白人、黒人、アジア人、ヒスパニック等々が入り乱れて、どれだけ面倒なピラミッドが出来上がるのだろうか、と。

おとといの夕方だけに、Cherry Hill Road で見たこと。どの車も40マイル（時速60キロ）で飛ばして

家路を急いでるとき、両方向に合計6車線ある広い道路に、中国人かベトナム人か、頭はパーマをかけてチリチリ気味で、パジャマを着てサンダルをつっかけた様なおばさんが、ちょこちょこと両側を見ながら勇ましく道路を横断しようとしていた。一気に6車両を越えるのは無理だったので、上下線の間の Island でいったん止まって様子を見ていた。ドライバーは、野次るとか、怒鳴りつけるとかはせず、見て見ぬふりをしてさあっと通り過ぎていった。昔インディアナ州のサウスベンドに住んでいた時も、夜のスーパー・マーケットに、全員パジャマ姿でサンダルをつっかけた家族が現れて。自分の目が信じられずにひっくり返しように驚いた。アメリカ人もぎょっとしていたが、やはり 見てみぬふりをして黙っていた。

「パジャマで公衆の場に出てきてはいけない」といった条例を市が作ることは可能だったかもしれないのだが、それにしても、どこの国出身にしても、男女ともども下着姿で買い物していたら、警察が呼ばれると思うけれど。アメリカ社会も、世界の文化の多様性に適応していくようになった、というか、要するにいろいろとがまん強くなってきているということか。

こういう言い方は良くないかもしれないが、生活水準の低い国からアメリカにやって来た連中に、公衆教育を施すということはしなくなって、あくまで個人の判断に任せるということになってきているのだろうか。かつて戦争花嫁が日本からアメリカに「押し寄せた」とき、キリスト教会やら YWCA あたりが、おそらく政府の指導で、彼女たちに「アメリカ生活の ABC」を教えたそう。どこかでやった学会に招待されたとき、翌日一緒にお茶した女性は、お母さんが戦争花嫁で日本から来た、と話してくれたが、とにかく「日本を捨てなさい」「日本を忘れなさい」「子供に日本語や日本文化を教えるはならない」といった非情の掟を叩き込まれたらしい。

まあ昨今の移民がキリスト教徒でない限り、教会が日曜学校などでそういう教育を施すことは出来ないだろう。むしろ宗教の自由を重んじなければならないので、放置するしかないのだろうか。移民の人たちにしたら、お金を貯めて子供を大学までやれば、子供の代で何とかアメリカ社会の主流に合流できるだろうという計算が、未だにあるのだろうか。移民の最新状況というのが、どうもわからない。

中華料理屋で注文を待っている間、その娘が店のちょっと汚れたテーブルで、宿題だか本を読むだかしている光景に出くわして。これもほんと昔からよくある光景で。中華料理屋の子供が勤勉で、店先のテーブルで、宿題だのやってる（またはゲームに興じる）。必ずあるパターンね。今回見た子は、バレエかなんかの本を見ていた。片方の足をイスの上ののせて、立てひざついて、ひじをテーブルにのせてスプーンでいちごだか ベリーをすくっては食べながら。この子がいつか育って行って、バレエを習ったとして、そのときはじめて、自分が育ってきた「文化圏」と「ヨーロッパ文化」の関係とかそういったものを学ぶのかなあ、それともそういう感覚は、今どきのダンスにはもう関係ないのかなあ、とか余計なことをふと考えた。

とまれ。こういう一番新しい移民たちの アメリカ化プログラムがどうなってるのか興味ある。はやくアメリカ人になりたいなんて、今どきの移民たちは思ってもいないだろうし、逆にアメリカ人だって、この連中がいつかアメリカ人になるとも思っていないんじゃないか。

とすると 全く同化しない集団が国内に増えているということか。そしてその集団の大部分が、中近東、南アジア、東アジアからの人間たちということか・・・

これは問題になるんじゃないのかあ・・・？

おとといも、スーパーに、頭から足の先まで 真っ黒のベールですっぽりくるまって、目だけを出してる背の小さな女性が入ってきて、アフリカ系の大きなおっさん、ちょっと ぎょっとしたみたいだけど、おっさんのほうが見てみぬふりして、その女のほうが、もう堂々と「あたしには この格好してアメリカのスーパーに来る権利あるのよ、文句あつか」といわんばかりに、どしどし歩いてて。はたで見ていて怖かった。そういえば別の ベールをかぶった女は、真っ赤だか紫だかの けばい化繊のブラだかTバックだかを指先にぶらさげて、しげしげと眺めていた。

アメリカ ほんとに見てみぬふりか・・・

National Archives のカフェテリアについて。



大昔（私がコロンビアの大学院生だった頃）公文書館が Suitland にあった頃は、カフェテリアなど、なかったような気がする。あったとしても ツナサラダとかチキンサラダのサンドイッチと 激マズのインスタントコーヒーが、自動販売機に入っていた程度。日本の新聞社の人たちと一緒に、タクシーののって中華料理食へに行った思い出はある。あのときの人たちが誰だったのか、覚えてないけれど。（いつか名刺を整理していたら、慰安婦に関する本でものすごく有名になった人とも、そんな縁で昼食を一緒に食へに行っていたことがわかり驚いたものだ。）

最後に Archives II に来たときも、カフェテリアはそれほど記憶になくて、「ちえ」という感じだったのが、今回久々に戻ってきて、あまりにおしゃれに改装されているので、びっくり。

今のアメリカはどうなってるんだ。 コーヒーは、Starbucks のおいしいやつ。サンドイッチも、チキンサラダからローストビーフからイタリア風からフレンチ風から。ピザに、Hot Meal に、ハンバーガーにサラダバーに。しかも内装もおしゃれ。外には グリーンのパラソルが出ていて、そこで食べることも。ちなみにオーブングリルで、注文を受けてから焼いてつくる Samurai Burger というのもあって、これはワサビがアクセントになっていて、結構いけそう。肉とワサビが相性が良いことに気がついたアメリカ人はえらい。それにしても National Archives のカフェにサムライバーガーね・・・・。アメリカ政府のお膝元の公文書館といえば、パールハーバーだ、太平洋戦争だという研究をする人たちがやってくるというに。その人たちのために、まごころこめたサムライバーガー。つくづく時代は変わった。

ただ 20 年前と変わらない光景もある。

お金のない大学院生が、身を削る思いで Archives に来てるんだろか。パスタだけを皿に載せて、2ドルだか3ドルだか。 でお金払ったあと、condiment station にきて、ケチャップを ぐちゃぐちゃ〜と、その素パスタにかけて、食べていた。これは 私のころも、貧乏大学院生が良くやってた。鍋でパスタをゆでて、そこにケチャップを投入。そして男の場合は、鍋から直接食べたりして。アメリカ人でもウクラ

イナ人でも。今でもそうなんだ。なつかしい。あと日本のサバの水煮缶にあたるのが、アメリカではツナ缶ね。



または Macaroni and Cheese だな

Archives が5時におわると、最終 Shuttle をみんな待ってるけど。私は昔どうやっていたのかなあ。Notre Dame から DC に来たときは 車を運転してきたと思うけど。院生だったころは、もちろん Shuttle に乗って、もよりの Metro Station で降りて、のりついてホテルに帰っていった・・・はず。一度大学院生の頃、Suitland で最終の Shuttle に 乗り遅れてしまったら、Archives の警備かしたような若いアフリカ系の、ちょっと小太りの、ちょっと Slow みたいなお兄ちゃんの車に乗せてってもらいなさいな、と受付か何かのおばさんに言われて、その子に Market Place のあたりまで連れてきてもらって、そこで降ろしてもらったな。なつかしい思い出であるよ。

Archives は昔からアフリカ系アメリカ人のスタッフが圧倒的に多い。ワシントンにある施設というのは、アフリカ系の人たちがいないと機能しない、ということでもある。住人がアフリカ系が多いから。

だけど Archives の役職の人たちの写真をみると 見事に全員が白人ばかりで。やっぱなあ・・・という感じで。

まだまだ遠いぞ。

最後に。

今日、ホテルに戻ってきたら、同じ頃、パーキングの近くに車をとめたアジア人がいて、ちょっと見、日本人かな、でも韓国人にも見えるなあ、と思ってたら、今日の Free Buffet (網焼きハンバーガーがおいしかったのよ、これが・・・)にも来て、ハンバーガーを取って行って。で、エレベーターも一緒になったんで、英語で Japanese or Korean? って聞いたたら、にこっとして Korean っていうんで、「ああ、日本人かなって思ったんですよ、私日本人なんで」と 英語で言ったら、すごい笑顔で あはは、という感じで応じて。でエレベーター降りるとき、おやすみなさい、と挨拶しあってちょいといい感じだった。なんというか、日本人と韓国人の、気まずさが前提の互いへの親しみ、みたいな。韓国では今、反日がものすごく・・・と思うけれど、必ずしもそうでもないんだなあ、みたいな・・・

話しはどんどん変わる。手頃な普段着を買うところがなくて、Target に行っても洋服を見たんだけど、おそろしく poor quality のものしかおいてなくて、Tシャツとかも、どれも薄っぺらくてぺらぺらのテラテラ。「値段高くて払うから、もう少ししっかりしたものをおいてくれ」と思った。縫製は、Nicaragua とか Vietnam とか。アメリカも、中国の製造業から撤退を始めてるんだ、と思った。

中国が自国でデザイン して自国ブランドを展開して海外に売るというラインは、まだ当面考えられない気がする。 Made in China と言っても、他人の国でデザインするものをただ言われて縫製してただけで、

ブランドにはなっていない。それでも「世界の工場」かなあ、という疑問が。

Target にしても、他のスーパーにしても、どうも今回「5年ぶりになつかしいなあ」という気がしない。「ひさびさに見るなあ」というものが あまり多くない。

結局毎年のようにサイパンで「アメリカ」を見てるので、5年ぶりといっても、ほぼ毎年サイパンで、アメリカ風のスーパーを見ていた、アメリカの製品を見ていた、ということか。もう一つの原因としては、沼津の西友がほとんどアメリカ仕様になっていて、**Walmart** と提携しているのだから、商品とか品揃えとか店の内装とか、何かと似てきているからかもしれない。もちろん、魚売り場とかお惣菜とか全く違うんだけど、どことなく似てる。うちの学部の学生たちが、はじめてアメリカに行ったとしても、もはや日本との差とか、そういった「衝撃」は感じないかな。世界中どこにいても、だいたい同じ、ということになってきているのかな。テレビやネットで、世界中のありとあらゆるところが、普通に見られるし。

「アメリカのにおい」はどこにある・・・

一番アメリカを感じるのは、車を運転してる時。アメリカの車は、馬力があるんで、ちょっとペダルふみだけで、ぐいんとスピードが出る。**maneuverability** もいい。日本の道は狭くてクネクネしてるんで、**maneuverability** なんてレベルの話してない。左ハンドルは気が楽。楽しめる。右ハンドルは未だに緊張するし、視界が悪い。日本の道路はとにかく狭くて怖い。東名高速道路を走ったのは、なにせ一度きり。

FM を聞いてて、おとといだか、**Archives** に行くとき、**Variations on the Theme of Paganini** のものすごい演奏を聴いて。バターと蜂蜜のように濃厚な、重厚な、それでいてしっかりした色彩も感じられて、重層的・立体的でもあって。「これは相当にすごいピアニストだぞ・・・アメリカの新人とか そういうレベルじゃないぞ・・・」と思ってたら、**Kissin** だった。**Kissin** にアメリカで再会したとは 何ともなつかしい。

きのうも、スーパーに行く途中の **FM** で、**Chopin** の スケルツオのものすごい演奏をやっていて、途中でラジオをとめるわけにいかず、**KFC** を買ってきたのを横の席に置いたまま、クーラー入れっぱなしで、**Giant** のパーキングに車をとめて 聞き入った。で途中で「これ、ほぼ絶対に **Kissin** だ」と確信したら、ほんとにやっぱり **Kissin** だった。

Kissin を何度も車で聞いて、アメリカに戻ってきた実感。あああ なつかしいな やっぱり。そしてアメリカ人は、結構 **Kissin** が好きだな。



リンカーンセンター横タワーレコードの地下クラシックコレクション階を思い出す。ビッグスクリーンモニターに映っていたのは、子供時代のキーシンの東京コンサート。みな スクリーンの前に立ち止まって聞き入った。深夜近くの土曜だったか。なんというか 一体感。リンカーンセンター、カーネギーマンハッタンはどこにいても音があった。極上の空間だわ。そういう意味では。(道路はゴミだら

けだったけど。)

2013/9/1, Sun 09:53

前期期末試験の採点を終えて一週間しないうちにアメリカにやってきて、そのまま仕事仕事で、観光も娯楽も全くないまま、ニューヨークにも行かないまま、今日まで来てしまい。遊ぼうとするとかえって疲れる。今日始めてセブンイレブンで地図を手に入れて、車を走らせて、ワシントン DC の中心に行ってきた。これがどれだけ難しいかというと、最近みんな車にナビをつけているので、地図など使わない。なのでこれまで近所の地図は、Google Map などをプリントアウトして動いていた。

さて、地図さえあればどうとでも動ける、というわけで行ってきた、ひさびさのワシントンは・・・

2013/9/3, Tue 14:45

そう、日本はそろそろサンマの時期。三島のスーパーではさんまのお刺身を売っていて、これがブリ・ハマチに劣らない油の乗りよう・・・

さて明日、アメリカでは議会の投票に関わらず オバマがシリアへの戦争を強行する見通しらしく。オバマも結局、影の超党派「長老」の駒に過ぎず、そういう連中が秘密裏にアメリカの一切を動かしていているわけで。

よりによって私が久々にアメリカに戻ってきた時に開戦さわぎとは。

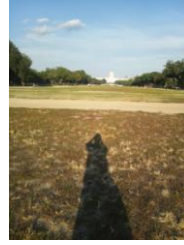
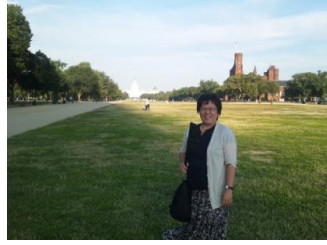
2013/9/3, Tue 14:53

こちらに来て、昨今の中国や韓国の対外宣伝（プロパガンダ）のせいで、さぞや反日感情がアメリカにあふれているかと思ったら、結構親日的で、むしろ中国や韓国に分が悪い感じ、という気がした。

私は三島に戻ろう。

2013/9/4, Wed 10:44

公文書館を5時にでて、ワシントン市内まで40分くらいかけてドライブ。アメリカのニュース番組で見るアメリカの議事堂（議会）をまじかみて、ここで開戦を決めるのかあ、と。そしてホテルに戻ってきて、夕飯に何を食べようかスーパーで考えこんでて、今さっきようやく帰ってきて、コンピューターをあけたら 震度4の地震があったと。



私の写真を撮ってくれたおじさん。娘に夢中

2013/9/4, Wed 16:40

National Archives のトイレは、TOTO だけど、もちろん ワッシュレットでも温暖シートでもない。要するに流す水の量が少なくてすむということで、入札したんだろか。

それでエレベーターはどこのだ、とチェックしたら、製造者の名前がどこにも出ていない。隠してあるみたい。結構 Mitsubishi、Hitachi、Toshiba だったりして、と思った。



今朝の TV ニュースで、Road rage がどんどん増えていて、Drivers は怒りを抑えられなくなっている。そういう人間たちと道路を Share して Drive する際、どうしたらよいか。「そういう危ない人間たちと絶対に目を合わせないこと」「しらん顔すること」「挑発に絶対に乗らないこと」と。アメリカでもこういうあぶない人間たちには、もうひたすら受身で知らん顔でいけ、と言いつける。なのに、戦争はやりたがる。自分たちが世界の警察を演じないとならない、と。Road rage は無視しろ、見てみぬふりしろ、とか言ってるのに。

9月に入って学校が始まったが、小中高と どこも Bullies が問題みたいで。Target だかどこかが「うちで洋服買わないと、仲間はずれになっちゃうよ～」といったテレビ CM を、8月半ば頃に流して大騒ぎになって、それで Pull out したそう。いじめはやめましょう、と言う。だけど戦争はやるんだよ。

HGTV (Home and Garden TV) を見ていた。自分たちの理想のアパート・家などを3つの選択肢から選び、予算、理想、希望が一番近いものを選ぶ、という番組をやっていた。まあ2万ドル以下で Townhouse が今でも買えるらしいし、Florida あたりの Waterfront だと6万ドルとか7万ドルとかになるし。見てて面白いなあと思ったのは、アメリカの家、どんどん「小さめ」になってること。Shopping しているいろんなアパートやら家に入ったときの第一声は、たいいてい「うーん、狭いな」と。Living Room しかり、Bedroom しかり。最近のアメリカ人が、いったいどの程度の広さを持って「広い」「狭い」というのか、よくわからないけれど、テレビで見る限り、確かに以前よりやや小さめになってるような。Bedroom とか Queen size Bed を1つ入れただけで、もうパンパンみたいな。Manhattan サイズの Living Room が田舎あたりでも、普通になってきてるような。

自分がアメリカの田舎に住んでいた頃の家は、無駄に大きくて広がった。住んでいたアパートも大きかった。コルゲート大学で教えていたときは、2階建ての一軒家を丸ごと借りていて、あれは思えば200平米以上は軽くあったと思う。しかし当時から、家が大きいと、エアコンをかけたり光熱費の燃費が悪い、ということはみな言っていた。ウィリアムズタウンに住んでいたとき住んでいたコンドミニアムは、玄関部から居間にかけて、いわゆる Cathedral Ceiling だったので、天井までは2階建て分の高さがあった。豪雪地帯だったので、雪が屋根に積もらないように屋根に傾斜をつける工夫だったのかもしれないけれど、隣に住んでいた若い男性と、ゴミ出しのときに立ち話した時、「天井まで暖めないとならないから光熱費がバカにならない、2階に住むんじゃないか」とこぼしていたのを思い出す。大きな家＝光熱費の無駄という発想だな。それで 大きな家＝アメリカンドリーム ではなくてきているわけだ。

あともう一つ、別件の話題で。（話しがあちこちに飛ぶなあ。）

たしか1990年くらいには アメリカの人口は2億3000くらいだったような。それが今や3億だ。Hispanic と、インドとパキスタンと、中近東と、あとはまあ中国か。それで1億増えたのだとしたら、白人人口は ほんとにもう50%を切ってるのでないか。とにかく今回、あまり白人を見ないのだ。Archives では 確かにリサーチしてるのは白人が多いが、スタッフは African American が多いから、白人は majority にはどうしても見えない。

ところで車の運転。アメリカに戻ってきて最初のうちは、譲り合っていていいなあ、と思ったが、1週間以上運転していて、DC とかにも遠出するようになると、まあ 右折左折のサインを出さない、ひどい運転する連中たちはやっぱり多い。一番迷惑な、右折左折の サインを出さない、あんたは何をしたいんだ、どっちに行きたいんだと思うくらい、サインを全く出さず、突然動き出す連中。アメリカも日本も同じ。

「アメリカ人の民度は高い」といったのは、つい1週間ほど前だった気も。

あれもこれも、徒然なるままの感想・・・支離滅裂。

2013/9/5 Thu 09:05

National Archives のコピーは SHARP の製品だった。Bidding とか入札とかやって それでアメリカ連邦政府のハコに入るんだものな。ついでだから、X-ray Booth とか、Cafeteria のいろんな Machines とか、チェックしてみたら面白い。テレビとか、Computers とか。車は、Nissan Cube がときどき走ってるので驚いた。日本で走っているのより、けばい色だけだ。

今朝は、Starbucks のコーヒーと、前日買っておいたドーナッツだけ食べて、Archives に着いてから、Diet Coke だけ飲んで、あとは Taking Photos と Xeroxing のみ。終わったらさすがにお腹すいたが、あのあたりには、ちょっとした食事ができるような diners など皆無。それで滞在ホテル近くの Hilton Garden Inn のところまで戻って、そこにある TGIF か、Panera で食べようか、と思ったけれど、ちょっと入ると10ドル以上というのもばからしいし、Panera だと また Bagel だし。

結局ホテルに戻ってきた。今日は Manager's Party の日で、Beef Hotdog と、サラダと、マカロニサラダと、Potato Chips と、Veltet Cake と 飲み物。たっぷり食べてお腹いっぱい。Complimentary Light Dinner がついてるといのは、これまでのアメリカに例をみないわ・・・ Revolutionary だなあ。

レンタカーを来週の金曜まで延長して。(あのお兄さんは、ちょっと Steven に似ている感じで、なかなか好感度高い)。で、ホテル前の Gas Station に行く。ここらにある Gas Stations を調べて、一番安全そうで、まともそうな人たちが来てみたいところを選んだ。やはり何のかんので、気は許せない。特にガソリンを入れているときなど、丸腰で動けない状態だから、銃など突きつけられたらもう最後、ということを考えないとならないあたり。1ガロンで、5セントくらいの違いは、安全のために目をつぶる。Fill したら 35 ドルくらい。ちょうど gas tank の4分の3ほどなくなっていたので、フルだったら、42-43 ドルってところか。今の日本と、ほぼ同じくらいの値段か？ いや、日本で運転しているのは、Honda Fit だから これより小さいか。日本とアメリカでガソリンが同じ値段のわけがない。

あと何日ここにいないとかならないんだ、と数えたら、あと 10 日で日本に帰れる。こうなるとなんだか罰ゲームみたいになってきた。

アメリカにこうやって来てみて、普通に生活して、車の運転も普通にやって、自分が日本からの旅行者でなくここで生活している人間だとしても、今のアメリカ人は そんなことどうだっていいと、気に留めもしないだろう。

周り全てに英語が書いてある環境ってどんなだったっけ・・・と、日本で思い出そうとしたことがあったけれど。戻ってきて、全てが英語で書いてある、英語に囲まれてる環境に戻ったからといって、別になあ。

ただし日本ですっかり忘れてた単語が、こちらに戻ってきて、ごく普通によみがえってきたり。たとえば fitting room とか、shoplifting とか。Target で買い物していて、普通に「fitting room はどこだ」と頭の中で考えていて、そんな単語、日本に戻っていたとき全く使ったこともなかったのになあ、と自分でも驚いた。

きのう、Archives での仕事を終えて、そのまま車で DC まで走って行って、Capitol Hill を見てきたけれど。ほんとに 真っ白だなあ、とあらためて。Williamstown に住んでいた頃、山を越えたところにあるニューヨーク州側の村から村へと田舎道を走ると、教会がとにかく真っ白だったのが印象的だったというか、気になったというか。相当頻繁にペンキ塗りしないと、あの白さは保てないだろうが。何だってアメリカ人は 白い建物が好きなのかな、とその頃から思ったものだけだ。



アメリカ人は白が好き。

とにかく Capitol Hill の真っ白が、どうも気になるというか、おさまりが悪いというか。そもそも自然界に 真っ白な Constructing Material なんて、あのギリシアだか地中海沿いの村が使ってるような漆喰みたいなものでない限り、ないだろう。ヨーロッパの国に、国会議事堂と、大統領・首相官邸を真っ白に塗っちゃっている国など、どれだけあるのだろう。まあとにかく、その Unnatural な真っ白にそびえる、

なんともいえない The Capitol Hill の前の lawn では、ごく普通の一般市民が、ごく普通に夕日を浴びて遊んでいる。

戦争が始まろうがなんだろうが、したたこっちゃない、ということか。よりによって 私がアメリカに来たときに、開戦決定だ・・・

Archives には、やたらと日本人の Researchers が沢山いるけど それ以外にも Chinese と Koreans とがいる。Archives II を使ってるということは Diplomatic and War Records を見に来ているわけだから、尖閣だ竹島だと、何か出てこないか調べているのだろう。

しかし。

戦後日米関係の「堅固さ」（というか何らかの利害関係を基にがっちりスクラムをくんでしまった態勢）のようなものを、今たどって行って、感じる。今さら韓国や中国が戦後国際史を洗い出して、日本に対するアメリカの patronage を取り去って「（自国に有利という意味で）公平な歴史」を書き直そうとするとしても、それはかなり難しいのではないか。韓国も中国も、なんとかアメリカと「対等」になろうとして、日本降ろしをしようとしても、日米の経済界だけでも、あそこまでがっちり提携してきているのだから、「からまりあった糸」をほどくためには、1945 年に戻るだけでは到底足りず、もっともって時代を下らないとならない。そうすると清の時代、李氏朝鮮・大韓帝国の時代までさかのぼってしまい、結局日米関係の根っこは、世界史のメガレベルでいう帝国主義の時代に育っている、ということになる。この絡まりあった根っこの片方を片方からはずす、というのは、とてつもない作業。

江華島条約の頃から 20 世紀の初めころまで、韓国は自分が格上、と日本に難癖つけているうちに、交渉する貴重なタイミングを逃して、結局日本にがんじがらめにされてしまった。

中国にしても。今ウクライナから中古の軍艦買ってきて reform して、アジアで一番の海軍力をつける、とかやってるのを見ていると、ちょうど 19 世紀末に、西太后が大理石で軍艦を造って頤和園の人口湖に浮かべたとやらのエピソード思い出して。これは当たっていないか。

日本だって同じように、あれこれとめちゃくちゃやっているが、だてに「先進国」を 150 年間やってきているわけでない。帝国主義の時代の最後のところで、「先進国（＝列強）」グループに、滑り込みでも入れたかどうか、というのがその後何かと特権を得ることができる決め手になっているわけで。1945 年に戻るだけではだめ。もっともって前に戻って「19 世紀アジアと帝国主義」というところから考えないと。

2013/9/5, Thu 18:40

以前も書いたけれど、日本製のアニメ放送が テレビからどっと減った。以前は深夜 3 時過ぎくらいに、青年・成人むきのものを流す Adult Swim のような枠があった。Ghost in the Shell とか Full Metal Alchemy とか、大好きだった Trigun とか。それもなくなり、以前は夕方に流れていた Pokemon とか Sailor Moon とかの子ども番組も一切消えた。Stanford にいたときも ほとんど日本のアニメを見なかったのだから、これはおそらく規制されたんだらうと思う。そのかわり どうもきたならしい感じの South Park みたいな貼り絵が動き回ってるようなアニメとか。何とか見られるのは KING OF THE HILL と、SIMPSONS くらい。どうやって、アメリカのテレビ枠から、日本のアニメ放送が追放（規制）されたのか。

なにか法律があるのなら、見たい。



嫌いじゃない



こんなの Google で見つけた

これも以前書いたけれど、日本の SASUKE のような、風雲たけし城 のような、そういう視聴者参加のアスレチック系番組を NBC も CBS (ABC?) も、別のものを流してるので、嫌でも何度も目に入ってしまう。ただ アメリカ人のは、超真剣というか面白くないというか。腕中にいれずみをした強面の男とか、イラク 帰りの海兵隊とか。ただ最近の男たちが こういうゲームに参加するとき、マッチョでも若い男だと、ママとパパが応援にかけつけて、息子の活躍を大喜びするというあたり。



←アメリカ人超真剣過ぎ

日本の番組のほうが、画面構成とかがきれい。ひいき目かもしれないが。何が違うんだろうか

あとは 「料理の鉄人」 Iron Chef からいろんな番組が派生して、料理人たちが、どっちがおいしい料理を作るか競争して、審査員が判定、というフォーマットを、あちこちのチャンネルでやっていた。著作権はどうなってるんだ？ 日本ではもう「料理の鉄人」なんか飽きられちゃっているというに、この国ではまだやっとなのか、と驚いた。

というか、新しい番組ができていなくて、ふるい番組を再放送というパターンがものすごく多い感じ。アメリカのテレビ界、元気がない。そういえば日本の何かの番組で、「今世界中で唯一日本だけが、いろいろ新しいテレビ番組を作る予算と気力がある、とオーストラリア (だかドイツだか) のテレビ関係者に言われた」と言っていたのを思い出す。

Jon Stewart と、Steven Corbert は面白いけど。 David Letterman なつかしいけど、今回はもう見てない。



シリアに開戦するかどうか、あちこちのチャンネルで けばい アラサー、へたしたら アラフォーが、満面の笑みを浮かべて報道してる。カメラを向けられると「はい Big Smile〜〜〜」という条件反射なのか？ あほだわ。アメリカの女性ニュースキャスターはさすがプロ、とか あれはうそね。

昨夜、議会で John McCain が、シリアに関するセッション中にスマホでポーカーゲームやってるところを見つかってしまい。そのニュースは流れたが、さほどの問題にはならなかった。もみ消したんだろう。冗談で終わってしまった。それもすごい。

アメリカに来て びっくりした Commercial がある。今すぐに品物を思い出せなくて、あれは一体何のコマーシャルなのか、いえないのだが。

やさしいお父さんがいて、娘や妻に、困ったこと、うれしいことがあるたびに、ガムの包み紙のようなもので、小さな銀の折り紙の鶴を折って、手の平に載せてやる。それがとてもきれいな銀細工のようなので、娘も大喜び。そうしていつか引越しのときが来て、娘がバンにいろんな箱を積んでいたところ、箱の1つが崩れて落ちてきた。するとその箱の中から、そのお父さんがくれた小さな銀の折鶴が山のように出てきた。つまり娘は、お父さんにもらった折り鶴を大切に全部とっておいたのだ、というお話し。

折り鶴に意味を見出す、取っておく、というのが まずすごい。

普通なら捨てるだろう、従来のアメリカ人なら。それを、もらった折鶴を、たかが紙を折っただけのものを、箱にいれてずっと大切にためていった、という行為。 しかもその折鶴をおったのは、お母さんでなく、ごっついお父さんというあたり。何というかほとんど文化革命。



みつけた。ガムのコマーシャルだった。アメリカにもこういった情緒が根付いたというのは、すごいことだ。

つつこみどころは満載で、これと全く同じコマーシャルが日本であっても全くおかしくない。むしろそれがアメリカで流れる、というところがすごいなあと思ったわけだ。

つまり、日本のアニメ放映はものすごく減ったが、この折鶴のコマーシャルにしても、American Ninja Warriors、Iron Chefs とか、何気に 日本のテレビのコンテンツが、アメリカ化して こっちで流れているというわけだ。

あと Honda の CM は、アジア人に見えなくもない（またはハーフか）好青年が、dealer を演じて、いろいろとしゃべっているんだけど、これは画期的だろう。一方 Hyundai は ひたすら韓国色を消して、ゴージャス感を出そうと、マンハッタンあたりの夜景を背景に「かっこよく」走る車とかをやってる。Honda とかは、もうそういう無理をする必要はないとばかり、アメリカの生活に溶け込んだ車を、売りに出してる。そしてそこにアジア人（ぼい Actor)を出しているわけだから、これは何気なく、アメリカの既存文化がアジアに持ってきたイメージへの静かなるチャレンジだと思うよ。

「Made in China のおもちゃだったら mercury でも含まれてるんだろう」とか、今夜の Corbert Report で言って笑いをとっていた。日本に関しては、そういう悪口はテレビを見ている限り出てこない。むしろ、アメリカの日常生活の中では、「日本」を当たり前として受け取っているようなところもある。韓国の存在は、まだ、ほぼ皆無。

ただし。今日見ていたアメリカ製のアニメで、ホットドッグの食べ競争のエピソードがあったけれど、チャンピオンは、田中だか松本だか、完全に日本の名前。ところが、応援するときの banner には、ハングルが書き込んであった。これは製作者の中に、Koreans がいて、無理やりそういうことをしてしまったのか。日本語とハングルの区別がつかないで、適当にやってしまったことなのか。まあ日本だって、フランス語とドイツ語の区別なんかつかない、スペイン語とイタリア語の区別もついていないけれど。どうもこのあたり

疲れて、疲れて、疲れがたまる。

2013/9/6 Fri 16:44

なにがうれしいって、Archives の入り口で、Security のお兄さんから、Hi, young lady と言われちゃったことだよ。「へたしたら、あんたのお母さんだよっ」と思いながら、自然と「てへへ・・・」という感じになった。恐るべし「年齢不詳らしいアジア人」。もっともアジア人同士なら、だいたいわかるあたり、これも人種的勘違いとか不慣れということか。

今日は それだけ。

あ、それから。こちらに来て、なんか白人がいらないなあ、あちこちどこをみても、アフリカ系、ヒスパニック系、中近東、南アジア系（インド+パキスタン+バングラ）ばっかじゃないか、と感じていて。体感として、白人人口は50%を切ったんでないか、というくらいだった。今日ちょっと調べてみたら、2013年の調査で、昨年だかアメリカで生まれた赤ん坊の人種は、白人がはじめて50%を割った、と。つまり、今から20年後には、白人は少数民族になってしまう、アメリカはどんどん darker になる、ということだ。

もともと白人人口自体が少数で、その人種が世界の富を独占し、いわゆる歴史を切り開いていったのは事実なんだけれど。その白人が少数民族になったとき、アジア人やアフリカ系や、ヒスパニックやらが「新たな歴史の章」を切り開いていけるのだろうか。ヨーロッパ系が作った箱物（国家）に、どやどやと移民してきて、自分たちで新しいものを創造することせずに、他のヨーロッパの国々も含めた世界の発展を支える存在を自負できるのだろうか。かといって今さら「有色人種移民禁止」なんて絶対にできない。

白人の「本音」は 一体どこらにあるんだろう。「自分たちは、もう消滅する人種だ」とか・・・？

生き残っていくために、Cross Breeding して、白人種の DNA をひろげていく、というのもひとつの手か。うちの学部に来るアメリカ人学生たちは、そりゃ日本が好きなのもあって interracial dating など全く問題なし、という子たちばかり。「黒人と白人のミックスが世界で一番きれいだってえ」とか普通に言っているくらいだけれど、あれは結構本気なのだろう。

それにしても、こないだ ワシントン DC にドライブしていったとき、ダウンタウンに向かうところの一角に若い白人がたむろしているのをみて、「おっっ、白人が群れをなしてる・・・」と 思わず見てしまったわよ。

確かに、白人は減ってる。

<http://www.cnn.co.jp/usa/30006632.html>

(CNN) 米国で1歳未満の乳児に占める白人(ヒスパニック系を除く)とマイノリティーの人口比が逆転し、白人が初めて少数派になったことが、米国勢調査局が17日に発表した統計で分かった。

国勢調査局ではアジア系、アフリカ系米国人など白人以外の層と、白人のうちヒスパニック系の人々を「マイノリティー」と定義している。この分類によるマイノリティーが1歳未満の乳児の人口に占める割合は2011年7月1日の時点で50.4%となり、初めて過半数に達した。10年4月の統計では49.5%だった。

5歳未満の統計でもマイノリティーの占める比率は49.7%となり、前年の49%から増加。将来的に米国の多民族化が一層進展し、こうした層がさらに重要な政治的、経済的役割を果たすようになると専門家は予想する。

専門家によれば、この傾向が続いた場合、2030年代後半か40年代までには米国全体のヒスパニック系を除く白人の人口が50%を割り込む見通し。

11年の統計で米国の人口全体に占めるマイノリティーの割合は36.6%(1億1400万人)だった。このうちヒスパニック系は5200万人と人口の16.7%を占め、増加率も3.1%と最大。次いで伸び率が高かったのはアジア系で、前年比3%増の1820万人だった。

マイノリティーの中でヒスパニックに次いで人口が多いアフリカ系米国人は前年比1.6%増の4390万人。アメリカおよびアラスカ系先住民は2.1%増の630万人だった。アメリカに来て、どうも白人の数が減ったなあ・・・あんまり白人がいないなあ、と感じていたのは、正解だった。

2013/9/6 Fri 16:51

学校から追試試験(期末試験を病欠した学生が2人)の解答が、データで送られてきて、それを採点して、最終成績を今さっき大学に送ったところ。

スタンフォードでは肉を食べていたけれど こちらに来てからスーパーで肉や魚を売ってるコーナーに行くと、どうもへんなにおいがして吐き気が。昔は、ターキー肉が結構好きだったけれど、ひさびさにみる七面鳥肉は、ばかでかくて、羽を抜いた穴がものすごく大きいグロテスクな手羽をみて、昔はこんな不気味なもの、食べていたのか、と これまた おえっ。



その他豚も牛も鶏も、どこから輸入しているものなかわからない。スーパーで売ってるものは、添加物だらけみたいで、もう怖くて怖くて・・・魚など、どう見ても腐ったものを売っている。ロブスターは、昔メイン州に住んでいたときのようなアレルギー症状を起こしてお腹に激痛が走るのでは、と怖くて手が出せない。ウィリアムズカレッジからメイン州のベイツカレッジで教えていた頃、スーパーマーケットの魚売り場には必ず水槽があってロブスターを売っていて。それでまあ、わりと頻繁にロブスターを食べていたので、ついにロブスターに呪われたのだ、と思っているのだけれど。

普通に食べられるのは ベーグルくらい。あとは、ローストビーフと有機野菜のサラダ。ホテル近くに Panera Bread があるのがありがたい。昔、バージニアに住んでいたころは、まずいとバカにしていたのだけれど。



2013/9/7 Sat 16:20

なんの勘なので、1日中資料探しをして戻ってきて、それを夜整理していると、終わるのが真夜中の3時ごろになってしまう。

スマホのカメラで、資料を取りまくっていて、アメリカに来て 1000 枚 (1000 ページ) くらい集めたけれど。ホテルに戻ってきて、それをコンピューターにダウンロードして、さらにバックアップのために、2本の USB に、別々に同じデータをコピーして。その際、資料を整理していると、これだけでも 1 時間以上かかってしまい・・・

もう今回はアメリカに来て、ほんとに何もする気がおこらず。観光も、買い物も、何かを食べる気もみごとに何をする気もおこらない。

毎晩、写真を整理していて、1 日の切れ目をマークするのに、ホテルの部屋の様子とか、夕飯だとかの写真を撮っているけれど、何日前か、ローストビーフをトルティーヤで巻いた物を、スーパーで買ってきて、さらに追加でローストビーフやら、ヤギのチーズとか、メキシコ料理でつかうサルサ・ソースなども購入。ルイジアナのクレオール料理もどきのお米 (鍋で 20 分煮て出来上がり) も買って来た。

後日、残ったトルティーヤを、クレオール米につこんだところ、水餃子みたいな味になって、まあまあ食べられた。ところが またしてもこれが残ってしまった。それで翌日、こんどは冷凍のキューバ風の味付けをしてあるエビを、残ったメキシコ風ライスに投入。ついに、何がなんだか分からない外見と味付けになってしまい。さらに、そこによせばいいのに 鶏肉のもも肉にバーベキューソースの味付けをしてある

安い肉（何か理由があって安かったはず）を買ってきて、それを電子レンジで調理して、付け合せにした。このキューバ風メキシコ風エビ+ローストビーフ・トルテイヤ入りルイジアナライスに、やぎのチーズ+サルサ+バーベキュー風味鶏のもも肉 — と、どんどん足していく。これで味覚がおかしくならないはずがない。

写真の 1 枚目は、スーパーのデリで買った まともなローストビーフのトルテイヤ。2 枚目は、それが数日かけてミュータント化していき、ついに取り返しがつかなくなった 1 品。

まさにアメリカに来て以来の、私の心象風景そのものかと。



もしかしたらアメリカの Melting Pot を無意識に抽象的に表現しようとしたのかも

2013/9/8 Sun 16:25

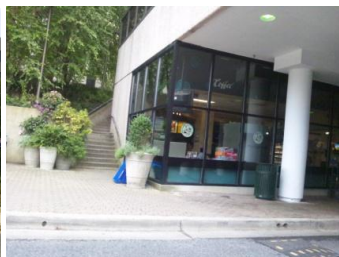
250 人近い学生たちの期末試験採点を終えたたった 5 日後、成田を発った私。カリフォルニアについて 2 日目にはもうスタンフォード大学にいた。壊れたスーツケースを直しに行って、最初の土曜日はひたすら寝てお洗濯だけ。そして日曜にモンタレーに行ったが、ついに港や海を見ることはできず、マミちゃんちと空港隣のホテルを 4-5 往復するだけで終わってしまい。モンタレー空港を早朝 6 時に発ちロサンゼルスを経由してワシントンへ。そしてワシントンについて 2 日後から公文書通いをはじめ、最初に借りたレンタカーが 3 日めに故障して、もっといい マツダ 3 に換えてもらい、それからはドライブも絶好調。しかし・・・

2013/9/9 Mon 11:46

アメリカで最後に教えた American University と、最後に住んでたアパートを見に行き、その近くにある、ワシントン周辺で一番おしゃれ（で高級）なショッピングセンターを見てまわって、始めて気分転換ができた。



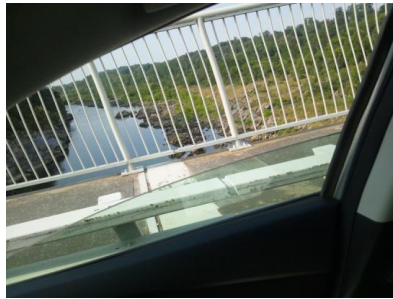
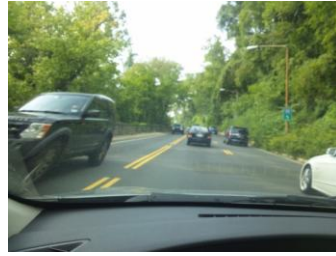
この建物に歴史学部があった



ここでコーヒー飲んだわあ



図書館



ポトマック河にかかる Chain Bridge を渡って右折すると、高級住宅が立ち並んでいて、さらに進むと CIA 本部の正面に出る。



この先右側に CIA 本部ゲート

アメリカで最後に住んでいた Dolly Madison



Cathy Lane

このビルに住んでいたが、実は 2 階だったか 3 階だったか思い出せない。



1908 Cathy Lane

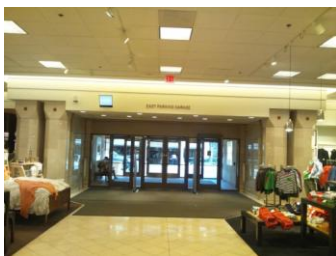
2階に住んでいたとすれば、踊り場の右側のここ



最後の年は、良くウォーキングした

Tyson's Corner の一角には LL Bean が入っていて、よく割引きのものを買っていた。今回行ってみたら、店員がみんな50-60代の高齢者でびっくりしてしまい・・・つまり、日本のユニクロと似たような現象で、若者離れ、もっぱらじじばばが気に入って着てるみたいなの・・・。まるみに言わせると、昔ファンだった世代がそのまま年をとって、そのまま愛着があって使ってるけど、子供とか孫の世代がそれについてこなくて、別のブランドに逃げちゃってるんだろう、と。

そのとおりの気がする。なのでもう LL Bean といったら、アメリカのじいちゃんばあちゃんが若い頃を思い出して着てるもの・・・のような。



LLBean でなくて、デパートの入口。

American Girl というお人形の総合プロデュースみたいな店もできていた。

まだノートルダムにいた頃、シカゴに第1号店ができたのは覚えていたけれど。そして確か覗きに入って、いやになって出てきてしまったような思い出がかすかに。

要するに、19世紀末から20世紀はじめの衣装をまとった、ちょっとノスタルジックな「古きよきアメリカの女の子」の衣装とか小物を着せたお人形を売っていたわけだ。「若草物語」とか「大草原の小さな家」とか、まあカナダだけど「赤毛のアン」とか、そういう世界をお人形にしたもの。

しかし今どきのアメリカでは、そういうものだけ売っているわけにはいかず、今回お店に入ってみたら、アフリカ系、ヒスパニック系、ネイティブ・アメリカン系、アジア系、と皮膚の色、髪の毛の色、質、目の色、かたち、などを細分化させたお人形たちがざっと30タイプはあふれていた。

そうなってくると、なんというか、もう方向性を完全に見失ってしまっているようで、いまやかわいいだけじゃ許されないとばかり、「めがねっ子」「科学大好きで、顕微鏡を見るのが大好き系」「スポーツ少女系」「車椅子系」「補聴器つけた系」「歯列矯正のブレースをつけてる系」「松葉杖をついてる系」などなど、これでもか、これでもか、と、化粧品やらアクセサリだけでない、びっくりするような小物や舞台装置を売っている。

人形が持つスクールランチの小物（備品）の中にも「アレルギー系の食べものが一切入っていないランチ」とかわざわざ断り書きしてある。このままでいくと、とんでもないもの小物やら、背景やら今後もどんどん出てきてしまうはず。「虐待されたけれど、めげない子」「学習障害を持っている明るい子」などなど。そういう人形は「よろしくない」という理由が勝たない限り、結構普通に出てくるのでないか。

<http://store.americangirl.com/agshop/static/home.jsp>

アメリカは いろんな意味で大変だけど、方向性を間違うと、なんか へんなところにいつちゃうんじゃないか・・・ と、老婆心ながら。

7時半にショッピングセンターが閉まるので、それにあわせて マックリーン (McLean) にさよならして、15-20キロの距離をホテルに帰っていく。一般道を通るので、途中少し迷った。でも1時間半くらいで戻ってこられた。アメリカの逢魔が時の町並みというのも、それはそれで素敵。ちょっとときどきする。



2013/9/10, Tue 16:34

今日は郵便局にいて、郵送できるものは日本に送ってしまう準備をはじめ、それからまたワシントン市内へ。郵便局では、「あらこれから日本に帰るの?」といったよもやま話が始まって「ここらではどんな食べ物が美味しかった?」と聞かれた。困った。それで行ってもないけれど、あちこちで聞いていたハンバーガーだかのお店の名前を言ったら、うけた。ほっ。

アメリカ歴史博物館、閉館1時間前にすべり込みで入って、ギフトショップでおみやげ探しして良いものを

見つけてきた。 スミソニアンのも物物しい建物の階段で、気功みたいな体操しているランニングシャツに、ネズミ色のズボンのおじいさん。 攻めてるなあ。



スミソニアン博物館・美術館とも、観光客にアピールする気は満々なのだろうけれど、なんか看板がおかしい。「おかしい」は平安時代の「いとおかし」でなく「へん」のほう。これは冗談でやっているわけではないよなあ、と思わず立ち止まって、しげしげとながめて、思わずセルフイーしてしまう。高尚な文化とは程遠い。ここはラスベガスか、というようなノリ。 観光客を呼び込む策略としても、いかがなものか。



このライオンが…



それよりも気になったのが、Smithsonian National Museum of Natural History の「人類の邂逅」とかいうポスター。これはないだろう、と思わず後ずさりした。白人も使え、白人も、と。猿人類とアフリカ系とアジア系を組み合わせ「邂逅」させている時点で、確信犯だろう。それにしてもこのアジア人が、草薙つよポンに似ているのも多少気になった。



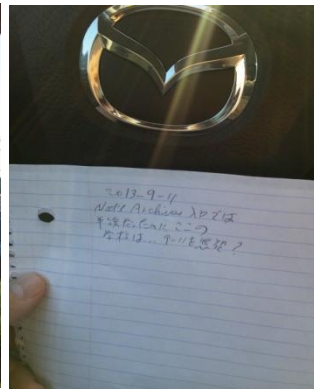
2013/9/10 Tue 16:35

夜、モンタレーに電話したら、モントヤさんはアメリカンフットボール見てたんで電話には興味なく、まみちゃんと日本語で話したらあっというまに1時間話し込んでしまった。

何を話したというのでもないのだが、まるみちゃんが、ゴミ捨てに出て行って、カラスがゴミをいたずらしないようにゴミを囲っておく網を組み立てようとして、たんこぶを作った事件がもう伝わっていて、その話しをで、ケラケラ大笑いしていた。

2013/9/11

9-11 のワシントン周辺はどうなっているのだろう、と思ったら、予想をはるかに超えて、思い出は風化してしまっているようだった。公文書館のゲートには半旗が掲げられていたけれど、ゲートからでて街中に行くと必ずしも半旗ではない。ホテルの入口は半旗になっていたけれど。あくまで個々の判断か。



2013/9/11 Wed 14:15

こっちに来てからずっと不安材料だったのが、Imperial Eclipse の売れ行きと評判だったのだけれど、アメリカの大学の新学期が始まって思いのほか売れているようで（あくまで学術本として）、とりあえずほっと

している。ケンブリッジ大学の図書館にももう入っていた。

明日（こちらの水曜）で、公文書館に行くのはおしまい。最後の木曜日は・・・博物館にでも行けたら。本当にこの1か月間、公文書館に通っただけ。遊んでいない。アメリカでの遊び方を、完全に忘れた。

2013/9/13 Fri 07:25

郵便局（車で10分かかる）にいったら、資料やおみやげなどを3箱郵送してホテルに戻ってきたところ。日本にいたときもアメリカに帰るとき資料をごっそり郵送してたけど。今回も3箱で2万円ほどかかった。昨夜は集めたデータ資料を整理して、カードやUSBにコピー取ったりして徹夜。思った以上に送るものが多く、半ばヒステリー気味に朝方8時頃まで箱詰め。昼過ぎから天気が荒れてきて、ついさきほどは集中豪雨に雷。なのでどのみちどこにも行けなかった。最後の日というにホテルに足止め。

2013/9/14 Sat 16:14

今から9時間前にロサンゼルス空港近くのホテルに到着。マミちゃんから、ロサンゼルス空港近くにとったホテルに電話がかかってきて、1時間半全く内容が思い出せない話しをする。ホテルのレストランが閉まってしまうので、それを理由に切り上げて、駆け足で夕飯へ。食べ終わって、ホテル向かいのコンビニで水など買って部屋に戻って、イプシロン打ち上げ成功のニュースをチェック。明日の朝は、成田行きの飛行機に乗る。

コシロユキコ

2013/09/06

お久しぶりです。ワシントンDCで行く夏を惜しむ歌を受け取りました。メーリングリストに加えていただき、ありがとうございました。

今回のアメリカ滞在は、日本大学から研究奨励金をもらったもので、期末試験の採点を終わらせてすぐこちらにやってきました。35日間研究ざんまいというのは、大変ありがたいですが、2冊目の本を完成させたのはこの春。ちょっと休みが欲しかった・・・というのが本音です。何と贅沢なグチですね。

実はアメリカに戻ってきたのは、5年ぶりです。

ひさびさのアメリカ本土。大きな変化を感じたのは、白人人口が目に見えて減ったという印象です。アフリカ系、ヒスパニック系に加え、インド・パキスタンなどの南アジア系、中近東系の移民が非常に増えていて、人口の半分を占める勢いのような印象もします。それに比べると、日本・中国・韓国などの東アジア系の人々の影が薄くなったようにさえ感じます。

次の研究プロジェクトは、戦後（サンフランシスコ講和条約以後）の日米関係について何か新しいことを掘り起こしていこうと思っています。現在アメリカと東アジア（日中韓）全体が大きな変換期にあって、過去

の日米の付き合いのパターンから一体何をどうすくい取ったら、日本とアメリカと東アジア全体に有益なのか、ちょっと予想ができなくなっています。

1冊目が アメリカの日本占領、2冊目が日本のアジア太平洋戦争におけるロシアとアメリカの位置、そして3冊目で、戦後から21世紀にいたる日米関係をやってみて、一体アメリカというのは、近現代日本にとってどういう国なのかを考えて行けたら何とか目標達成、ということにしようと考えています。

アメリカで久々にドライブを楽しんでいます。今日いわし雲のような空模様に気がつき、ああアメリカにいても夏は終わりつつあるのだなあ、と思いました。

猛暑もあともう数週間の辛抱でしょうか。
どうぞご自愛くださいませ。

小代有希子

PS よりによってアメリカに戻ってきた期間中に、対シリア開戦が決定するというのは、何というめぐり合わせ・・・と 悲しんでいます。

9/15/13

長いようで短かった!?! 1ヶ月…

無事にご帰国おめでとうございます🙏

《嵐🌀をよぶ女👩》は今回も見事に台風を呼び寄せ👩さすが と思いました🙏
このメールを書いている今現在はあまり風は吹いていず、雨がふっているだけなので、飛行機🛩️も無事着

陸できることを想定して、スマホにメール入れておきます
帰ってきたらしばらくはあれこれ片づけで忙しいと思いますが、まずは無事三島に帰り着き、でゆっくり寝
てください

まるの



または

